

vRealize Business for Cloud ユーザー ガイド

vRealize Business for Cloud Standard 7.2 および vRealize
Business for Cloud Advanced 7.2

vRealize Business 7.2

vRealize Business for Cloud 7.2



vmware®

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<https://docs.vmware.com/jp/>) にあります
このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

VMware株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

Copyright © 2013 – 2016 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。著作権および商標情報。

目次

- vRealize Business for Cloud ユーザー ガイド 5
- 1 vRealize Business for Cloud 機能の概要 6
 - vRealize Business for Cloud Standard エディションの機能 6
 - vRealize Business for Cloud Standard エディションと vRealize Business for Cloud Advanced エディション
で使用できるユーザー インターフェイス オプション 7
 - vRealize Business for Cloud ダッシュボード 9
 - システム ステータスの表示と更新 10
 - [概要] ページ 15
- 2 プライベートおよびパブリック インフラストラクチャ情報のコンピュート 17
 - クラウドのコストの計算 17
- 3 パブリック クラウド情報の収集 34
 - vCloud Air の概要 34
 - Amazon Web Services の概要 37
 - Microsoft Azure アカウントのコストの表示 40
- 4 消費分析 41
 - 価格設定ポリシーについて 41
 - 消費料金の表示 55
 - ビジネス ユニット リストの表示 59
 - ビジネス ユニット ヒート マップの表示 61
 - ショーバックの詳細情報の表示 61
 - 仮想マシンの料金、容量およびアップタイム情報の表示 62
 - 仮想マシンの日次価格レポートの生成 63
 - 仮想マシンの電源状態の変更を表示する 64
 - 追加サービスの表示 64
 - vRealize Business for Cloud における ESXi 以外の物理サーバのコスト計算のサポート 66
 - vRealize Automation で定義されているデフォルトの vRealize Business for Cloud ユーザー 66
- 5 vRealize Business for Cloud でのクラウド モデルの比較 67
 - クラウド コストの比較 67
 - クラウド比較情報の表示 68
 - プライベート クラウド プロバイダとパブリック クラウド プロバイダの比較 68
 - クラウドへの新しい仮想マシンの追加によるクラウド コストの比較 69
 - プライベート クラウドの仮想マシンを使用したクラウド コストの比較 71
 - データ センターの比較 71

- データ センターの管理 72
- 仮想マシン グループの表示または編集 73
- 仮想マシン グループの削除 73
- クラウド比較情報のリセット 74
- データセンターの最適化情報の表示 74

6 vRealize Business for Cloud のレポート 76

- vCenter Server レポートの表示 76
- vCloud Director レポートの表示 87
- vRealize Automation 仮想マシン レポートの表示 88
- ストレージ レポートの表示 88
- パブリック クラウド レポートの表示 89
- Cloud Business 分析レポートの表示 92
- 履歴レポートの表示 93
- レポートの編集 94
- カスタム レポートの表示 95
- パブリック API を使用した vRealize Business for Cloud レポートの生成 96

vRealize Business for Cloud ユーザー ガイド

『VMware[®] vRealize Business™ Standard ユーザー ガイド』では、vRealize Business for Cloud ユーザー インターフェイスの紹介、主要な用語や概念の説明、インフラストラクチャの可視性を高めるために実行できるさまざまなタスクに関する説明を提供します。

対象読者

この情報は、vRealize Business for Cloud ユーザー インターフェイスを使用する vRealize Business for Cloud のユーザーまたは管理者を対象としています。

VMware の技術ドキュメントの用語集

VMware の技術ドキュメントには、新しい用語などを集約した用語集があります。VMware の技術ドキュメントで使用されている用語の定義については、<http://www.vmware.com/support/pubs> をご覧ください。

vRealize Business for Cloud 機能の概要

vRealize Business for Cloud はクラウド計画、予算作成、コスト視覚化ツールであり、エンタープライズ IT データセンターの意思決定を支援します。このツールは、プライベート クラウドおよびパブリック クラウド インフラストラクチャの両方の管理を単一のペインで行います。

vRealize Business for Cloud では、次の機能がサポートされます。

- パブリック クラウドの比較、コストと使用量の可視性 (AWS、Azure、および VMware vCloud Air との統合を含む)
- サービスの高度な価格設定と vRealize Automation との統合。
- 消費分析のためのロール ベースのアクセス制御。
- 予算の構成および可視性。
- EMC SRM などのデータセンター ストレージ システムのコスト分析。
- vSphere、VMware vCloud Director、vRealize Automation、vRealize Operations Manager などの vCloud Suite コンポーネントのコストおよび使用量の可視性。
- レポートの生成。

この章では次のトピックについて説明します。

- [vRealize Business for Cloud Standard エディションの機能](#)
- [vRealize Business for Cloud Standard エディションと vRealize Business for Cloud Advanced エディションで使用できるユーザー インターフェイス オプション](#)
- [vRealize Business for Cloud ダッシュボード](#)
- [システム ステータスの表示と更新](#)
- [\[概要\] ページ](#)

vRealize Business for Cloud Standard エディションの機能

vRealize Business for Cloud Standard エディションには、vCloud Suite ライセンスと vRealize Suite ライセンスのキーを使用してアクセスできます。ただし、vRealize Business for Cloud Standard エディションの制限および使用できる機能のオプションを考慮する必要があります。標準ライセンスでは、vRealize Business for Cloud の一部のオプションを使用できない場合があります。

使用できるユーザー インターフェイスのオプションの詳細については、「[vRealize Business for Cloud Standard エディションと vRealize Business for Cloud Advanced エディションで使用できるユーザー インターフェイス オプション](#)」を参照してください。

vRealize Business for Cloud Standard エディションは、次の機能をサポートします。

- vSphere、VMware vCloud Director、vRealize Automation、vRealize Operations Manager などの vCloud Suite コンポーネントのコストおよび使用量の可視性。
- vRealize Automation との基本的な価格設定統合。
- データセンターの最適化を除くクラウドの比較。
- シンプルなレポート。

vRealize Business for Cloud Standard エディションと vRealize Business for Cloud Advanced エディションで使用できるユーザー インターフェイス オプション

vRealize Business for Cloud ユーザー インターフェイス オプションは、ライセンス キーによって異なります。vRealize Business for Cloud を使用すると、vCloud Suite Advanced または Enterprise、vRealize Suite Advanced または Enterprise のライセンスの利用可能なすべてのオプションを表示することができます。vCloud Suite Standard ライセンスと vRealize Suite Standard ライセンスの一部として使用できない vRealize Business for Cloud オプションもあります。

表 1-1. vRealize Business for Cloud Standard エディションと vRealize Business for Cloud Advanced エディションのユーザー インターフェイスの比較。

実行できるタスク	vRealize Business for Cloud Standard エディションで使用できるオプション	vRealize Business for Cloud Advanced エディションで使用できるオプション	vRealize Automation 統合設定およびスタンドアロン設定の vRealize Business for Cloud ユーザー インターフェイスのナビゲーション
vCenter Server、vCloud Director などのプライベート クラウド アカウントの管理	はい	はい	<ul style="list-style-type: none"> ■ 統合設定の場合：[管理]-[ビジネス マネジメント]-[プライベート クラウド接続の管理] ■ スタンドアロン設定の場合：[管理]-[プライベート クラウド接続の管理] <p>注意 vCloud Suite Standard および vRealize Suite Standard のライセンスを使用して、EMC SRM サーバを追加することはできません。</p>
EMC SRM サーバなどのプライベート クラウドのアカウントの管理	いいえ	はい	<ul style="list-style-type: none"> ■ 統合設定の場合：[管理]-[ビジネス マネジメント]-[プライベート クラウド接続の管理]-[ストレージ サーバ] ■ スタンドアロン設定の場合：[管理]-[プライベート クラウド接続の管理]-[ストレージ サーバ]
vCloud Air、AWS、Azure、比較用のクラウド プロバイダなどのパブリック クラウド アカウントの管理	いいえ	はい	<ul style="list-style-type: none"> ■ 統合設定の場合：[管理]-[ビジネス マネジメント]-[ハイブリッドおよびパブリック クラウド アカウントの管理] ■ スタンドアロン設定の場合：[管理]-[ハイブリッドおよびパブリック クラウド アカウントの管理]

表 1-1. vRealize Business for Cloud Standard エディションと vRealize Business for Cloud Advanced エディションのユーザー インターフェイスの比較。(続き)

実行できるタスク	vRealize Business for Cloud Standard エディションで使用できるオプション	vRealize Business for Cloud Advanced エディションで使用できるオプション	vRealize Automation 統合設定およびスタンドアロン設定の vRealize Business for Cloud ユーザー インターフェイスのナビゲーション
リファレンス データベースの更新	はい	はい	<ul style="list-style-type: none"> ■ 統合設定の場合：[管理] - [ビジネス マネジメント] - [リファレンス データベースの更新] ■ スタンドアロン設定の場合：[管理] - [リファレンス データベースの更新]
問題を分析するためのログ ファイルの生成とダウンロード	はい	はい	<ul style="list-style-type: none"> ■ 統合設定の場合：[管理] - [ビジネス マネジメント] - [サポート ファイル] ■ スタンドアロン設定の場合：[管理者] - [サポート ファイル]
ライセンスの更新	はい	はい	<ul style="list-style-type: none"> ■ 統合設定の場合：[管理] - [ビジネス マネジメント] - [ライセンスの更新] ■ スタンドアロン設定の場合：[管理] - [ライセンスの更新]
vRealize Business Enterprise 統合のためのトークンの生成	いいえ	はい	<ul style="list-style-type: none"> ■ 統合設定の場合：[管理] - [ビジネス マネジメント] - [vRealize Business 統合] ■ スタンドアロン設定の場合：[管理] - [vRealize Business 統合]
データ コレクタの管理	はい	はい	<ul style="list-style-type: none"> ■ 統合設定の場合：[管理] - [ビジネス マネジメント] - [データ コレクタの管理] ■ スタンドアロン設定の場合：[管理] - [データ コレクタの管理]
減価償却費の計算	はい	はい	<ul style="list-style-type: none"> ■ 統合設定の場合：[管理] - [ビジネス マネジメント] - [計算設定] ■ スタンドアロン設定の場合：[管理] - [計算設定]
vRealize Business for Cloud の概要の表示	はい	はい	[ビジネス マネジメント] - [概要]
プライベート クラウドのコスト、費用および課金情報の表示	はい	はい	[ビジネス マネジメント] - [プライベート クラウド (vSphere)]
ハイブリッド クラウドのコスト情報の表示	いいえ	はい	[ビジネス マネジメント] - [ハイブリッド クラウド (vCloud Air)]
パブリック クラウドの表示 (AWS)	いいえ	はい	[ビジネス マネジメント] - [パブリック クラウド (AWS)]
パブリック クラウドの表示 (Azure)	いいえ	はい	[ビジネス マネジメント] - [パブリック クラウド (Azure)]
プライベート クラウド運用分析情報の表示	はい	はい	[ビジネス マネジメント] - [運用分析] - [プライベート クラウド (vSphere)]
価格の値とポリシー、料金、ビジネス ユニット リストおよびビジネス ユニット マップの表示	はい	はい	[ビジネス マネジメント] - [価格設定と料金]
価格の編集	はい	はい	[ビジネス マネジメント] - [価格設定と料金] - [価格設定] - [編集] - [価格設定の編集]

表 1-1. vRealize Business for Cloud Standard エディションと vRealize Business for Cloud Advanced エディションのユーザー インターフェイスの比較。(続き)

実行できるタスク	vRealize Business for Cloud Standard エディションで使用できるオプション	vRealize Business for Cloud Advanced エディションで使用できるオプション	vRealize Automation 統合設定およびスタンドアロン設定の vRealize Business for Cloud ユーザー インターフェイスのナビゲーション
予算の値の編集	いいえ	はい	[ビジネス マネジメント]-[価格設定と料金]-[価格設定]-[編集]-[予算の編集]
ビジネス階層の編集	はい	はい	[ビジネス マネジメント]-[価格設定と料金]-[ビジネス ユニット リスト]-[編集]-[ビジネス階層の編集]
ショーバックの詳細情報と再利用の機会の表示	いいえ	はい	[ビジネス マネジメント]-[ショーバック]
クラウド コストの比較	はい	はい	[ビジネス マネジメント]-[クラウドの比較]
データセンターの最適化情報の表示	いいえ	はい	[ビジネス マネジメント]-[データセンターの最適化]
vCenter Server のレポートの生成	はい	はい	[ビジネス マネジメント]-[データ セット]-[vCenter Server]
vCloud Director のレポートの生成	はい	はい	[ビジネス マネジメント]-[データ セット]-[vCloud Director]
vRealize Automation 仮想マシンのレポートの生成	はい	はい	[ビジネス マネジメント]-[データ セット]-[vRealize Automation 仮想マシン] <small>注意 このオプションは、vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定では利用できません。</small>
ストレージ レポートの生成	いいえ	はい	[ビジネス マネジメント]-[データ セット]-[ストレージ]
パブリック クラウド レポートの生成	いいえ	はい	[ビジネス マネジメント]-[データ セット]-[パブリック クラウド]

vRealize Business for Cloud ダッシュボード

vRealize Business for Cloud ダッシュボードは、統合クラウド ビジネス マネジメント データ モデルをサポートするように設計されています。このダッシュボードは [概要]、[費用]、[運用分析]、[消費]、[プラン] および [レポート] などの主要なカテゴリに分類されており、より一貫性および統一性に優れたデータ モデルをサポートしています。

表 1-2. vRealize Business for Cloud ダッシュボード

セクション	説明
概要	費用の合計、運用のコスト、および消費コストの合計に関する情報を提供します。
費用	プライベート、パブリックおよびハイブリッド クラウドの費用の詳細を含む、すべてのインフラストラクチャ費用を提供します。
運用分析	クラウド環境における当月のコスト、トレンドのほか、CPU、メモリ、ストレージの割合の合計、オペレーティングシステムの使用状況（ライセンスおよび人件費）に関するコストの内訳情報を提供します。

表 1-2. vRealize Business for Cloud ダッシュボード (続き)

セクション	説明
消費	リソースに関連付けられたコストと料金の値を提供し、再利用情報を提供します。これにより予算の値を設定でき、コストと料金の値に基づくクラウドサービスの使用量に関する分析が容易になります。ショーバックの詳細情報が表示されます。
プラン	まずプライベートクラウドのコストドライバを用いてプライベートクラウド内で新規の仮想マシンを実行した場合、または既存の仮想マシンを実行した場合の推定コストを示します。次に、Amazon Web Services、Microsoft Azure、およびvCloud Hybrid Service クラウドモデルで同じ構成を使用した場合のコストの比較を表示します。これにより、データセンターを最適化することができます。
レポート	レポートを生成して、vCenter Server、vCloud Director、vRealize Automation のコストの詳細、およびパブリッククラウドの詳細について表示します。カスタマイズしたレポートを作成することも可能です。

システム ステータスの表示と更新

クリティカルな社内のビジネス プロセスのステータスを表示および更新して、システム全体の健全性を把握することができます。システム プロセスは、インベントリ データとコスト データが常に最新であることを確認するためにデフォルトで定義された間隔で実行されます。この間隔は、`itfm.properties` ファイルで各ジョブのプロパティを更新することで変更できます。

デフォルトのジョブ間隔を変更する方法については、[「システム ステータスを更新するためのデフォルトのジョブ間隔の表示と変更」](#) を参照してください。

- データ コレクタは vCenter Server インスタンスに接続し、インベントリ データおよび使用量統計を収集します。インベントリ データと使用量統計の収集後、vRealize Business for Cloud は現地時間で最後に実行したジョブのタイムスタンプを表示します。vCenter Server データ収集ジョブは、デフォルトの間隔で実行されるようにスケジュールされています。
- ストレージ コレクタは、EMC SRM サーバインスタンスに接続し、データと使用量の詳細を収集します。収集プロセスが完了すると、vRealize Business for Cloud サーバはプロセスの詳細およびタイムスタンプを表示します。
- コスト計算では、基準レート、配賦済みコスト、各仮想マシンのコストを計算するステップとレポートの自動生成が実行されます。コスト計算は毎日行われますが、このプロセスを手動でトリガーすることもできます。
- vRealize Automation コネクタは、IaaS が構成されている場合、vRealize Automation の IaaS コンポーネントのブループリント、プロビジョニング グループ、およびテナントに関して、仮想マシンの消費者のデータを収集します。vRealize Automation 接続情報は、vRealize Automation の IaaS コンポーネントを構成した場合にのみ表示されます。
- パブリック クラウド接続は、構成された vCloud Air および AWS アカウントに接続し、インベントリ データおよび使用量データを収集します。パブリック クラウド接続情報は、アカウントを構成した場合にのみ表示されません。




- vCloud Director コネクタは vCloud Director に接続し、組織または組織 vDC に従って、仮想マシンの消費者に関するデータを収集します。vCloud Director 接続情報は、vCloud Director を vRealize Business for Cloud に追加した場合にのみ表示されます。

また、コスト計算、vRealize Automation、vCloud Director、パブリック クラウド接続情報を表示および更新することもできます。

手順

- 1 https://<vRealize_Automation_host_name>/vcac/org/tenant_URL で、テナント管理者の認証情報を使用して vRealize Automation インターフェイスにログインします。
- 2 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name>/vcac/org/tenant_URL (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 3 [Business Management] をクリックします。
- 4 [ステータス] をクリックします。

vRealize Business for Cloud には、システム ステータス情報が表示されます。データ コレクタ、コスト計算、vRealize Automation、パブリック クラウド接続、および vCloud Director 接続に関する情報が表示されます。

- すべてのプロセスが正しく実行している場合は、緑の成功ステータス  アイコンが表示されます。
- 必須ジョブが失敗した場合は、赤の失敗ステータス  アイコンが表示されます。
- 非必須ジョブが失敗した場合は、警告ステータス  アイコンが表示されます。

注意 デフォルトでは、インベントリ、ストレージ、タグ、および使用量統計情報などの vCenter Server データ収集ジョブは、コスト計算に必須であるため、クリティカル ジョブに設定されています。一方、vRealize Operations Manager 同期ジョブは非必須ジョブに設定されています。

いずれかの必須ジョブ プロセスに問題がある場合は、赤ステータスが表示されます。非必須ジョブに問題がある場合は、警告ステータスが表示されます。

ただし、**itfm.properties** ファイルで次の行を更新することで、ジョブのクリティカル度の設定値を変更できます。

- タグおよびストレージ ジョブを非必須に設定するには、ファイルに次の行を追加します。

```
dc.job.critical.vc.tags = false
dc.job.critical.vc.storage = false
```

- vRealize Operations Manager 同期ジョブを必須に設定するには、ファイルに次の行を追加します。

```
dc.job.critical.vc.vcops=true
```

- 5 (オプション) プロセスを実行してコスト データと接続を更新するには、各プロセスの横にある [今すぐ更新] をクリックします。

vRealize Business for Cloud のデフォルト設定の表示とアップデート

/usr/ITFM-Cloud/va-tools/bin/ にある update-config.py ユーティリティを使用して、vRealize Business for Cloud のデフォルトの設定を変更することができます。

開始する前に

SSH サービスを有効にします。『インストールガイド』の「SSH 設定を有効または無効にする」を参照してください。

手順

- 1 既存の設定値を表示するには、以下の手順を実行します。
 - a vRealize Business for Cloud 仮想アプライアンスの IP アドレスに SSH 接続を行い、シェル プロンプトにログインします。
 - b 次の形式でコマンドを実行し、値を表示します。

```
curl localhost:8000/configs/query?key=<プロパティ キー>
```

```
curl localhost:8000/configs/query?key=< dc.job.interval.vc.storage >
```

```
{
  "key": "dc.job.interval.vc.storage",
  "profile": "default",
  "value": "720",
  "documentVersion": 0,
  "documentEpoch": 0,
  "documentKind": "com:vmware:vrbc:configservice:document:ConfigDocument",
  "documentSelfLink": "/configs/58d14f4b1478265008637022",
  "documentUpdateTimeMicros": 1478265008637030,
  "documentUpdateAction": "POST",
  "documentExpirationTimeMicros": 0,
  "documentOwner": "087c6067-821e-4efe-89f7-7f7b6c2eedfa"
}
```

2 値を変更するには、次の手順を実行してください。

a vRealize Business for Cloud 仮想アプライアンスの IP アドレスに SSH 接続を行い、シェル プロンプトにログインします。

b `/usr/ITFM-Cloud/va-tools/bin/` フォルダに移動します。

```
cd /usr/ITFM-Cloud/va-tools/bin/.
```

c 次の形式でコマンドを実行し、値を変更します。

```
./update-config.py <key> <Value>
```

```
./update-config.py <dc.job.interval.vc.tags> <60>
```

注意 いくつかの構成を変更することができます。

キー	値
デフォルトの仮想インフラストラクチャの人件費およびオペレーティング システムの人件費のレート	「サービスの追加」 を参照してください。
すべてのデータ収集ジョブの間隔	「システム ステータスを更新するためのデフォルトのジョブ間隔の表示と変更」 を参照してください。
CPU、RAM およびディスク容量を計算するための統計情報モデル	vRealize Operations Manager の統計情報の構成 を参照してください。

システム ステータスを更新するためのデフォルトのジョブ間隔の表示と変更

すべてのエンドポイントからのデータ収集は、デフォルトの間隔で実行するようにスケジュール設定されていますが、個々のジョブ プロパティを更新することによって変更可能です。

次の表には、データ収集のために変更可能なすべてのエンドポイントのジョブ、ジョブ プロパティ、およびそれらのデフォルトの間隔が示されています。

注意 `update-config.py` ユーティリティを使用して、次の形式でコマンドを実行することによって、これらの間隔を変更できます。

```
./update-config.py <key> <Value>
```

たとえば、ストレージのデータ収集を 1 時間ごとに実行するには、シェル プロンプトで次のコマンドを実行します。

```
./update-config.py dc.job.interval.vc.tags 60
```

`update-config.py` ユーティリティの使用方法の詳細については、[vRealize Business for Cloud のデフォルト設定の表示とアップデート](#) を参照してください。

表 1-3. データ収集ジョブ

エンドポイント	ジョブ	キー (ジョブ プロパティ)	値 (デフォルトの 間隔 (分))	説明
vCenter Server	インベントリ	該当なし	インベントリの更 新直後に実行	なし
	タグ	<code>dc.job.interval.vc .tags</code>	360	6 時間ごとに実行
	vRealize Operations Manager	<code>dc.job.interval.vc .vcops</code>	30	30 分ごとに実行
	ストレージ	<code>dc.job.interval.vc .storage</code>	720	12 時間ごとに実行
	使用量統計	<code>dc.job.interval.vc .stats</code>	1440	24 時間ごとに実行
EMC SRM		<code>dc.job.interval.sr m</code>	1440	24 時間ごとに実行
vRealize Automation		<code>dc.job.interval.vr a</code>	220	2 時間ごとに実行
パブリック クラウド	AWS	<code>dc.job.interval.aw s</code>	1440	24 時間ごとに実行
	vCloud Air	<code>dc.job.interval.vc a</code>	1440	24 時間ごとに実行
	Azure	注意 Azure の間隔を構成する ことはできません。必要な ときにジョブを手動でトリガ できます。	1440	24 時間ごとに実行
vCloud Director		<code>dc.job.interval.vc d</code>	60	1 時間ごとに実行

注意 データ収集処理を即時に実行するには、[状態] をクリックして、各プロセスの横にある [今すぐ更新] オプションをクリックします。

データ収集処理で障害が発生した場合、vRealize Business for Cloud はデフォルトで、その処理の実行を最大 5 回まで再試行します。update-config.py ユーティリティを使用して、`dc.failed.job.max.retry.count` パラメータを更新するための再試行回数を変更します。

たとえば、`dc.failed.job.max.retry.count = 3` のように指定します。

vRealize Business for Cloud はデフォルトで、2 分間隔でプロセスを再試行します。update-config.py ユーティリティを使用して、`dc.failed.job.retry.period` パラメータを更新するためのこの間隔を変更します。

たとえば、`dc.failed.job.retry.period = 1` のように指定します。

vRealize Operations Manager の統計情報の構成

vRealize Operations Manager では、使用可能な CPU、RAM、およびディスク容量を計算するために異なるモデルを使用します。

容量の計算のために、vRealize Operations Manager のモデルと同期させるように vRealize Business for Cloud を構成できます。

update-config.py ユーティリティを使用することにより、vRealize Operations Manager ポリシーに従って CPU、RAM、およびディスク容量のプロパティを変更できます。値の変更方法については、[「vRealize Business for Cloud のデフォルト設定の表示とアップデート」](#)を参照してください。

- `cpu.stats.model=alloc` または `cpu.stats.model=demand`
- `memory.stats.model=alloc` または `memory.stats.model=demand` または `memory.stats.model=consumed`
- `diskspace.stats.model=alloc` または `diskspace.stats.model=demand`

vRealize Business for Cloud では、デフォルトで使用可能なメモリの計算、および使用可能な CPU とディスク容量の計算に割り当てモデルやデマンドモデルが使用されます。また、vRealize Business for Cloud では、デマンドモデルや消費ベースのモデルが使用されます。

注意 vRealize Business for Cloud に異なる vRealize Operations Manager によって監視される複数の vCenter Server アカウントが含まれる場合でも、すべての vRealize Operations Manager インスタンスで同じモデルが使用されます。異なるモデルを使用して特定の vRealize Operations Manager インスタンスを構成する場合は、個々の vRealize Operations Manager インスタンスを構成する必要があります。

[概要] ページ

[概要] ページは、当月のインフラストラクチャ費用および使用量の詳細に関する情報を提供します。

- **インフラストラクチャの概要**：クラウドインフラストラクチャ全体のワークロードを表示します。すべてのクラウドインフラストラクチャの種類に対する仮想マシンの推定合計数を確認できます。それぞれの色は、アカウントのタイプ（プライベート、パブリック、および構成されている場合は vCloud Air）ごとの仮想マシンの数を表します。マウスカーソルをそれぞれの色の上に置くと、該当するアカウントタイプの仮想マシンの合計数を示すツールチップが表示されます。
- **上位のデータセンター**：CPU 使用量に基づく上位 5 つのデータセンターのコンピューティング、メモリおよびストレージの使用状況を表示します。青色と灰色は、それぞれデータセンターの使用済み容量と残りの容量を示します。この表示は、データセンターの最適化に役立ちます。
- **インフラストラクチャの使用量**：仮想マシンの合計数に基づく上位 5 つのデータセンターの仮想マシンの合計数およびパワーオンされたマシンの数を表示します。vCenter Server が vRealize Operations Manager に関連付けられている場合は、各データセンターの節約可能な仮想マシンの数を表示することもできます。

- クラウド全体の費用：アカウントのタイプ（プライベート、パブリック、および構成されている場合はvCloud Air）の予測される費用の合計を表します。マウスカーソルをそれぞれの色の上に置くと、該当するアカウントタイプの推定費用の合計数を示すツールチップが表示されます。推定費用の値は、過去6か月のコスト使用率に基づいて計算されます。

注意 パブリッククラウドおよびvCloud Airの予測される費用は、次の計算式を使用して計算されます。

Projected cost = A + ((B/24) * n)、ここで **A** は現時点でのコストの合計、**B** は前日のコスト、**n** は当月の残りの時間数です。

- 上位のビジネスユニット：仮想マシンの合計数に基づく上位5つのビジネスユニットを表示します。消費に対して課金される金額も表示することができます。マウスカーソルを色の付いたアイコンの上に置くと、前の月の料金を表示することができます。当月の料金が前の月の料金よりも少ない場合は、緑色の矢印が表示されます。同様に、当月の料金が前の月の料金よりも多い場合は、赤色の矢印が表示されます。前の月と比較して料金が同じ場合は、黒いアイコンが表示されます。
- コストと価格：当月の予測される合計料金を表示します。また、コストと価格のグラフがさまざまな色で表示され、データセンターを維持するための推定費用（コストの値）と当月に消費者に課金される金額が示されます。これはリカバリ範囲内か、あるいはリカバリ超過かの分析に役立ちます。マウスカーソルを小さな円の上に置くと、推定コストと価格の値がツールチップに表示されます。

注意 vRealize Business for Cloud は、コストと価格の計算の目的で、導入前日のインベントリの日付およびデータを検討します。[概要] ページのすべての値は、過去6か月間の値に基づいて計算される推定値です。

プライベートおよびパブリック インフラストラクチャ情報のコンピュー

2

環境のプライベートおよびパブリック クラウド情報を表示して変更できます。

クラウドのコストの計算

費用とは、データ センターを管理するうえで発生するコストです。費用は手動で入力できます。費用を入力しない場合は、vRealize Business for Cloud の参照データベースから値が取得されます。クラウド インフラストラクチャの費用の合計を算出すると、サービスを構成している基盤となるリソースにこれらのコストを割り当てることができます。基盤となるリソースとは、CPU、RAM、ストレージ、オペレーティングシステム（ライセンスおよび作業）です。

費用の概要

費用の概要は、各費用をハードウェア、ストレージ オンデマンド、ライセンス、メンテナンス、人件費、ネットワーク、設備、追加コストに分類することができるダッシュボードです。プライベート クラウド アカウントの当月の予測される合計費用と一定期間のコストのトレンドを表示できます。

データ センターの費用は変更できます。これらのコストは、パーセンテージ値または単価で示すことができ、総コストという意味とは限りません。ユーザーの入力に基づき、費用の最終額が計算されます。費用についての入力値を設定しないと、vRealize Business for Cloud 製品の一部である参照データベースからデフォルト値が取得されます。

費用の概要には、プライベート クラウドの当月予測されるコストと一定期間における総コストのトレンドが表示されます。vRealize Business for Cloud はすべての費用に対し、コスト変動の月次のトレンド、実際の費用、および実際の費用と費用の参照コストを表すチャートを表示します。

注意 vCenter Server が 6 か月以上前から追加されている場合、トレンドには直近の 6 か月の合計コストのみが表示されます。そうでなければ、トレンドには vCenter Server が vRealize Business for Cloud に追加された月からの合計コストが表示されます。

表 2-1. 費用のタイプ

コスト要因	説明
[ハードウェア]	CPU の世代別のサーバコストとサーバコストの詳細が表示されます。完全なサーバコスト情報については、[完全なコスト情報が記載されたハードウェア リスト] リンクをクリックしてください。
[ストレージ オンデマンド]	カテゴリ別ストレージの配分の合計と未分類のコスト詳細が表示されます。データ ストアの完全なリストとストレージに関するデータ ストアのコスト情報については、[完全なコスト情報が記載されたストレージ オンデマンド リスト] リンクをクリックしてください。

表 2-1. 費用のタイプ (続き)




コスト要因	説明
[ライセンス]	クラウド環境のオペレーティング システム コストのライセンス コスト配分と VMware ライセンスが表示されます。チャートにマウスのカーソルを置くと、各ライセンスのコスト詳細が表示できます。完全なライセンス コスト情報については、[完全なコスト情報が記載されたライセンス リスト] リンクをクリックしてください。 注意 ESX 以外の物理サーバについては、VMware ライセンスが適用されません。
[メンテナンス]	サーバハードウェアとオペレーティング システムのメンテナンスのメンテナンス コストの配分が表示されます。チャートにマウスのカーソルを置くと、各メンテナンス タイプのコスト詳細が表示できます。メンテナンスに関する完全なコスト情報については、[完全なコスト情報が記載されたメンテナンス リスト] リンクをクリックしてください。
[人件費]	サーバ、仮想インフラストラクチャ、オペレーティング システムの人件費の配分が表示されます。チャートにマウスのカーソルを置くと、各人件費タイプのコスト詳細が表示できます。人件費に関する完全なコスト情報については、[完全なコスト情報が記載された人件費リスト] リンクをクリックしてください。 注意 <ul style="list-style-type: none"> 人件費には、バックアップ アプライアンスの仮想マシン (VDP 仮想マシン) の費用が含まれます。 物理サーバについては、オペレーティング システムの人件費とサーバの人件費は適用されますが、仮想インフラストラクチャ コストは考慮されません。
[ネットワーク]	NIC タイプごとのネットワーク コストが表示されます。チャートにマウスのカーソルを置くと、各 NIC タイプのコスト詳細が表示できます。ネットワークに関する完全なコスト情報については、[完全なコスト情報が記載されたネットワーク リスト] リンクをクリックします。 注意 物理サーバについてはネットワーク詳細は取得されません。このため、ネットワーク コストがゼロと見なされます。
[設備]	賃貸/購入や電源/冷却など、設備のコスト配分が表示されます。チャートにマウスのカーソルを置くと、各設備タイプのコスト詳細が表示できます。設備に関する完全なコスト情報については、[完全なコスト情報が記載された設備リスト] リンクをクリックしてください。
[追加コスト]	バックアップおよびリストア、高可用性、管理ライセンス、VMware ソフトウェア ライセンスなど、追加費用が表示されます。

データセンターを選択して、データセンター固有の情報を表示できます。

費用の編集

8 つの費用タイプはいずれも、今月以降の月次コストを手動で編集できます。

コスト要因に使用される構成は、vRealize Business for Cloud でコストの計算と表示がどのように行われるかを決定します。

- コストが業界のベンチマーク値に基づいている場合は、オレンジ色の垂直の帯  が表示されます。
- コストがハードウェア構成に基づいて計算されている場合は、緑色の垂直の帯  が表示されます。
- コストが手動で入力された場合は、青色の垂直の帯  が表示されます。

ハードウェアの月次コストの編集

各サーバグループのコストは、グループの構成と、クラウド環境で実行されているバッチ サーバの購入日に基づいて表示、追加、編集、削除できます。サーバハードウェア コストを更新すると、vRealize Business for Cloud で各サーバグループの月次コストの合計と平均が更新されます。サーバで EMC SRM が特定したストレージ アレイのリストに関する詳細を表示することもできます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name>/vcac/org/tenant_URL (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [費用] の下で、[プライベート クラウド (vSphere)] をクリックします。
- 4 [費用 (vSphere)] を選択し、[費用の編集] をクリックします。
- 5 [ハードウェア] タブを選択します。
- 6 [サーバ] タブを選択します。

vRealize Business for Cloud は、ハードウェア構成に基づいて、すべてのデータセンターのすべてにおけるサーバハードウェアをインベントリにグループ化します。




カテゴリ	説明
名前	インベントリ内のサーバの名前が表示されます。
サーバ数	インベントリ内の特定のハードウェア構成のサーバ合計数が表示されます。
説明	サーバグループの説明が表示されます。
サーバの月次コストの平均	サーバの月次コストの平均が表示されます。この値は、購入パッチとリースパッチの価格の加重平均として計算されます。
月次コストの合計	インベントリ内のサーバの総コストが表示されます。この値は、コスト値とサーバ数を乗算した結果となります。

- 7 (オプション) [すべてのデータセンター] ドロップダウン リストからデータセンターを選択し、特定のデータセンターのサーバハードウェア情報を表示または編集します。

8 サーバハードウェアコストを編集するには、サーバグループのバッチを作成します。

- [CSV ファイルのアップロード] リンクをクリックし、[参照] をクリックして、サーバ購入の詳細を含む CSV ファイルをアップロードします。

注意

- CSV ファイルには、指定したすべてのフィールドが含まれている必要があります。
<serverModelName,manufacturer,numCpus,cpuType,cpuGhz,memGb,numberOfServers,dateOfPurchase,pricePerServer,batchType,dataCenterName>
 - メモ帳を使用して、CSV ファイルを編集します。Microsoft Excel で編集すると日付形式が変化する場合があります。
 - CSV ファイル内の通貨は、デプロイ時に構成した通貨と一致する必要があります。
-
-  アイコンをクリックします。
 - a [購入サーバ] または [リースサーバ] リンクをクリックし、価格またはリース料金に基づいてサーババッチを編集します。
 - b サーバの詳細を追加するには、 アイコンをクリックし、日付、サーバの数、およびサーバあたりのコストまたはサーバあたりの賃借コストの値を更新します。
 - c (オプション) サーバ詳細を削除するには、 アイコンをクリックします。選択したサーバグループ情報が削除されます。

各サーバのバッチ コストと平均コストが更新されます。

9 [SRM] タブを選択し、ストレージアレイのコストを編集し、サービスレベル加重を変更します。

リンクされた EMC SRM 内に存在するストレージアレイのリストが vRealize Business for Cloud に表示されます。ストレージハードウェアのアレイ名、説明、アレイディスクの数と詳細、アレイの購入日、参照コスト、月次コストを確認できます。

カテゴリ	説明
名前	ストレージアレイ名が表示されます。
説明	アレイモデル (VMAX40K、VMAX10K)、アレイファミリ (VNX、VMAX)、アレイタイプ (BLOCK、FILE) などのストレージアレイ詳細が表示されます。
ディスク数	各ストレージアレイのディスクの合計数が表示されます。
参照コスト	特定のストレージアレイの参照コストと、アレイ内のディスクのコストが表示されます。
月次コスト	特定のストレージアレイの月次コストと、アレイ内のディスクのコストが表示されます。

カテゴリ	説明
購入日	特定のストレージ アレイの購入日が表示されます。この値は変更できません。
総コスト	特定のストレージ アレイの総コストが表示されます。この値は変更できます。 注意 デフォルトでは、総コストと参照コストは同じです。必要に応じ、アレイ コストとディスク コストの両方を考慮して総コストを変更できます。アレイの総コストは、ハードウェア コスト、ライセンス コスト、人件費、メンテナンス コスト、設備およびネットワーク コストなどを含みます。

注意 複数のアレイのコストと購入日を同時に編集できます。アレイの月次コストは、変更された総コストと購入日に基づいて自動的に計算されます。

10 [保存] をクリックします。

入力された値に基づき、vRealize Business for Cloud でサーバの月次コストの合計と平均が更新されます。

サービス レベルの加重を編集

サービス レベルは、ストレージ ディスクの効率とパフォーマンスに基づいて LUN を分類します。EMC SRM の LUN で構成されるディスク品質を示すサービス レベル名のリストが表示されます。また、サービス レベルの加重値を表示することができるので、特定のサービス レベルの LUN の基準レートを計算する場合に役立ちます。

手順

1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。

- https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
- https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)

2 [Business Management] をクリックします。

3 [費用] の下で、[プライベート クラウド (vSphere)] をクリックします。

4 [費用 (vSphere)] を選択し、[費用の編集] をクリックします。

5 [ハードウェア] タブの下で、[SRM] を選択します。

6 [サービス レベルの加重を編集] リンクをクリックします。

7 更新するサービス レベルの加重値を変更します。

加重値は、**1** から **10** の範囲で設定できます。

LUN にサービス レベルが割り当てられていない場合、基準レートの計算には、サービス レベルのデフォルトの加重値が使用されます。

8 [保存] をクリックします。

ストレージ オンデマンドの月次コストの編集

ストレージ ハードウェアは、データストアのストレージ カテゴリとストレージ タイプに応じて分類されます。ストレージ カテゴリ (タグを使用) およびストレージ タイプ (NAS、SAN、ファイバチャネル、またはブロック) に基づいて、データストアの月次コストをストレージの GB 単位で編集することができます。

開始する前に

ストレージ カテゴリに基づいてコストを編集するには、タグを作成し、vCenter Server ユーザー インターフェイスでデータストアに適用する必要があります。詳細については、VMware vSphere ドキュメントを参照してください。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - `https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL>` (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - `https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name/itfm-cloud>` (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [費用] の下で、[プライベート クラウド (vSphere)] をクリックします。
- 4 [費用 (vSphere)] を選択し、[費用の編集] をクリックします。
- 5 [ストレージ オンデマンド] タブを選択します。
- 6 [ストレージ カテゴリ] または [ストレージ タイプ] を選択します。
デフォルトでは、[ストレージ カテゴリ] が選択されています。
- 7 (オプション) タグ カテゴリを選択します。

このオプションを使用できるのは、[ストレージ カテゴリ] を選択していて、vCenter Server 内にタグ付けされたデータストアが 1 つ以上ある場合のみです。

注意 タグに基づいて GB あたりの月次コストを編集する場合は、タグ カテゴリを 1 つのみ選択できます。タグ カテゴリの選択を変更すると、vRealize Business for Cloud は以前のタグ カテゴリをオーバーライドし、新しいタグ カテゴリの選択内容に基づいてデータストアを再分類します。

2 つのタグ カテゴリ (例: プロファイルと階層) があり、各カテゴリに 3 つのタグが含まれている場合は (プロファイル内にブロンズ、シルバー、ゴールド、および階層内に階層 1、階層 2、階層 3)、[タグ カテゴリ] からプロファイルまたは階層を選択し、タグに基づいてデータストアを分類することができます。

カテゴリ	説明
カテゴリまたはストレージタイプ	<ul style="list-style-type: none"> ■ [カテゴリ]には、データストアのタグ カテゴリ、およびカテゴリに連付けられているタグが表示されます。例： Profile:Silver, Profile:Bronze. <hr/> <p>注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ vCenter Server 6.0 の新規インストールを実行していて、タグをデータストアに割り当てていない場合、vRealize Business for Cloud は、データストアのストレージ カテゴリを uncategorized として表示します。 ■ 5.1.x や 5.5.x などの vCenter Server の旧バージョンを使用している場合、vRealize Business for Cloud ではデータストアのストレージ プロファイルが表示されます。 ■ [ストレージタイプ]には、Virtual SAN タイプのデータストアまたは EMC SRM 管理対象ストレージアレイに含まれるデータストアのストレージ詳細が表示されます。たとえば、ブロック デバイス、ファイバ チャネル、NAS、SAN が該当します。データストアがどのストレージ デバイス タイプにも含まれない場合、vRealize Business for Cloud ではデータストアが uncategorized として表示されます。
データストア	特定のカテゴリまたはタイプのデータストアの合計数が表示されます。データストア値をクリックし、データストアとその詳細（各データストアの月次コスト、合計 GB など）のリストを表示できます。
合計 GB	特定のカテゴリまたはタイプの合計ストレージが表示されます。
参照コスト	参照コストが表示されます。
GBあたりの月次コスト	特定のカテゴリまたはタイプの GB あたりの月次コストが表示されます。この値を編集して、データストアの GB あたりの月次コストを定義することができます。
月次コスト	特定のカテゴリまたはタイプの月次コストの合計が表示されます。

8 (オプション) [すべてのデータセンター] ドロップダウン リストからデータセンターを選択し、特定のデータセンターのストレージ情報を表示または編集します。

9 タグ カテゴリとストレージタイプに基づいてストレージ コストを編集するには、次の手順を実行します。

- [ストレージ カテゴリ] または [ストレージタイプ] を選択します。
- テーブルの [GB あたりの月次コスト] フィールド内の値をクリックして、この特定のタグまたはタイプのコストを更新します。
- コストの値を変更します。

例：ストレージ カテゴリの場合は、ブロンズに \$0.5、シルバーに \$1.0、ゴールドに 1.5 \$ を入力できます。同様に、ストレージタイプの場合は、ブロック デバイスに \$2.0、ファイバ チャネルに \$2.5、NAS に \$3.0 を入力できます。

10 [保存] をクリックして、更新されたストレージ月次コストの変更を保存します。

更新された値に従って、vRealize Business for Cloud はストレージの月次コストを再計算して表示します。

データ ストアの情報の表示

vRealize Business for Cloud で追加したデータ ストアに関する詳細を表示できます。この詳細には、データ ストアが属しているストレージ プロファイルの名前、その特定のストレージ プロファイルのデータ ストア数、GB あたりの月次コスト、データ ストアの月次コスト、参照コスト、データ ストアのリスト、データ ストア URL が含まれます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [費用] の下で、[プライベート クラウド (vSphere)] をクリックします。
- 4 [費用 (vSphere)] を選択し、[費用の編集] をクリックします。
- 5 [ストレージ オンデマンド] タブを選択します。
- 6 ストレージの月次コストテーブルで、データ ストアの数をクリックします。
 選択したストレージ カテゴリまたはストレージ タイプに属するデータ ストアの詳細が表示されます。

ライセンスの月次コストの編集

クラウド環境のオペレーティングシステムのライセンス コストの合計と VMware のライセンス コストを編集できます。ELA 課金ポリシーを選択するか、またはソケットあたりの値を選択して、ライセンス コストを編集できます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [費用] の下で、[プライベート クラウド (vSphere)] をクリックします。
- 4 [費用 (vSphere)] を選択し、[費用の編集] をクリックします。
- 5 [ライセンス] タブを選択します。

vRealize Business for Cloud によってクラウド環境内のすべてのライセンスが表示されます。

カテゴリ	説明
名前	オペレーティングシステムのカテゴリを表示します。オペレーティングシステムが Windows でも Linux でもない場合は、vRealize Business for Cloud はそのオペレーティングシステムを [他のオペレーティングシステム] として分類します。
仮想マシン	特定のオペレーティングシステムで実行されている仮想マシンの数が表示されます。
ソケット	特定のオペレーティングシステムの実行に使用されているソケットの数が表示されます。
請求元	コストがソケット単位と ELA 単位のどちらで課金されるかが表示されます。

カテゴリ	説明
総コスト	特定のオペレーティングシステムの総コストが表示されます。
参照コスト	vRealize Business for Cloud 参照データベースで定義されている参照コストが表示されます。

- 6 (オプション) [すべてのデータセンター] ドロップダウン リストからデータセンターを選択し、特定のデータセンターのライセンス コスト計算を表示または編集します。

注意 物理サーバについては VMware ライセンスが適用されません。

- 7 月次コストを変更する編集アイコンをクリックします。

環境内で実行中のオペレーティングシステムと VMware のライセンス情報をまとめたライセンス詳細ページが表示されます。

- 8 オペレーティングシステムの月次コストを編集します。

- ソケットあたりのオペレーティングシステムの月次コストを選択し、コストの値を変更します。
- オペレーティングシステムの ELA の月次コストを選択し、コストの値を変更します。

注意 Windows オペレーティングシステム グループの場合、追加オプションを使用すると、ELA ポリシーに従って Windows デスクトップのコストとして課金できます。

- 9 [保存] をクリックします。

入力した値に応じて、vRealize Business for Cloud は総コストを計算して表示します。[請求元] 列は選択したオプションに応じて更新されます。

メンテナンスの月次コストの編集

クラウド環境のメンテナンスの月次コストは編集できます。メンテナンス コストは、ハードウェアのメンテナンス コストとオペレーティングシステムのメンテナンス コストに分類されます。ハードウェアのメンテナンス コストは、サーバの購入コストに占めるパーセンテージとして計算されます。オペレーティングシステムのメンテナンス コストは、Windows のライセンス コストに占めるパーセンテージとして計算されます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [費用] の下で、[プライベート クラウド (vSphere)] をクリックします。
- 4 [費用 (vSphere)] を選択し、[費用の編集] をクリックします。
- 5 [メンテナンス] タブを選択します。

- 6 (オプション) [すべてのデータセンター] ドロップダウン リストからデータセンターを選択し、特定のデータセンターのメンテナンス情報を表示または編集します。
- 7 メンテナンスの月次コストを編集します。
 - ハードウェアのメンテナンス コストのパーセンテージ値を編集します。
 - オペレーティング システムのメンテナンス コストのパーセンテージ値を編集します。
- 8 [保存] をクリックします。
- 9 (オプション) [リセット] をクリックすると、更新された値はクリアされます。

メンテナンスの月次コストが更新されます。

月次の人件費の編集

クラウド環境の月次の人件費は編集できます。人件費は、サーバ管理者、仮想インフラストラクチャ管理者、およびオペレーティング システム管理者の総コストの組み合わせです。

手順


- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [費用] の下で、[プライベート クラウド (vSphere)] をクリックします。
- 4 [費用 (vSphere)] を選択し、[費用の編集] をクリックします。
- 5 [作業] タブを選択します。

月次の人件費が表示されます。

カテゴリ	説明
カテゴリ	人件費、サーバ、仮想インフラストラクチャ、およびオペレーティング システムのカテゴリが表示されます。
計算基準	コストが時間単位と月単位のどちらで計算されるかが表示されます。
月次コストの合計	特定のカテゴリの月次コストの合計が表示されます。
参照コスト	カテゴリの参照コストが vRealize Business for Cloud データベースから表示されます。

- 6 (オプション) [すべてのデータセンター] ドロップダウン リストからデータセンターを選択し、特定のデータセンターの人件費を表示または編集します。

注意 物理サーバについては、オペレーティング システムの人件費とサーバの人件費は適用されますが、仮想インフラストラクチャ コストは考慮されません。

- 7 月次の人件費を変更する対象で  アイコンをクリックします。
サーバの合計数が表示されます。
- 8 作業の時間単価または月次人件費の合計を選択し、値を変更します。
- 9 [保存] をクリックします。

月次コストの合計が更新されます。選択する時間レート オプションまたは月次コスト オプションが、[計算基準] 列で更新されます。

ネットワークの月次コストの編集

ネットワーク インターフェイス コントローラ (NIC) タイプごとに月次コストを編集することも、クラウドに関連付けられたすべてのネットワーク費用の合計コストを編集することもできます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name>/vcac/org/tenant_URL (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [費用] の下で、[プライベート クラウド (vSphere)] をクリックします。
- 4 [費用 (vSphere)] を選択し、[費用の編集] をクリックします。
- 5 [ネットワーク] タブを選択します。
- 6 (オプション) [すべてのデータセンター] ドロップダウン リストからデータセンターを選択し、特定のデータセンターのネットワーク コストを表示または編集します。

注意 物理サーバについてはネットワーク詳細は取得されません。このため、ネットワーク コストがゼロと見なされます。

- 7 ネットワークの月次コストを編集します。
 - 1 ギガビット NIC および 10 ギガビット NIC の値を変更します。
 - クラウドに関連付けられたすべてのネットワーク費用の月次コストの合計を変更します。
- 8 [保存] をクリックします。
- 9 [リセット] をクリックすると、変更前に定義した値を設定します。

ネットワークの月次コストの合計が更新されます。

設備の月次コストの編集

クラウド環境について、設備の月次コストの合計を指定したり、不動産、電源、冷却に必要な設備コストを編集したりすることができます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [費用] の下で、[プライベート クラウド (vSphere)] をクリックします。
- 4 [費用 (vSphere)] を選択し、[費用の編集] をクリックします。
- 5 [設備] タブを選択します。
- 6 (オプション) [すべてのデータセンター] ドロップダウン リストからデータセンターを選択し、特定のデータセンターの設備情報を表示または編集します。
- 7 設備の月次コストを編集します。
 - ラックユニットあたりの賃貸または購入のコストを変更し、キロワット時あたりの電源および冷却の月次コストを変更します。
 - 設備の月次コストの合計を変更します。
- 8 [保存] をクリックして、更新内容を保存します。
- 9 [リセット] をクリックすると、変更前に定義した値を設定します。

設備の月次コストが更新されます。

追加コストの編集

追加コストを使用すると、vRealize Business for Cloud で分類されている他の費用の対象とはならない追加費用や、特別な費用などを追加できます。この費用には参照値は存在しません。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。

- 3 [費用] の下で、[プライベート クラウド (vSphere)] をクリックします。
- 4 [費用 (vSphere)] を選択し、[費用の編集] をクリックします。
- 5 [追加コスト] タブを選択し、追加アイコンをクリックします。
- 6 管理ソフトウェア、ディザスタ リカバリ、および高可用性のためのコストなど、他の費用タイプでは考慮されない費用の月次コストを入力します。
- 7 [保存] をクリックします。
- 8 (オプション) [リセット] をクリックすると、変更前に定義した値を設定します。

追加コストの月次コストが更新されます。

運用分析の概要

クラウド インフラストラクチャの費用の合計を算出すると、サービスを構成している基盤となるリソースにこれらのコストを割り当てることができます。基盤となるリソースとは、CPU、RAM、ストレージ、オペレーティング システム (ライセンスおよび作業) です。運用分析では、CPU、RAM、ストレージをクラウド インフラストラクチャの第 1 コンポーネントとみなします。

運用分析モジュールは、コスト要因コンポーネントを入力値として使用することによって、クラウド インフラストラクチャ内の月次合計運用コストをモデル化して受け入れ、CPU、ストレージ、RAM の基準レートを算出します。基準レートの値は、CPU についてはギガヘルツあたりの価格 (ドル)、ストレージと RAM についてはギガバイトあたりの価格 (ドル) で表されます。コスト要因で構成した CPU、メモリ、ストレージに基づき計算された基準レートは、仮想マシンの月次合計運用コストを算出するために、仮想マシンに対する月次合計クラウド コストを設定するのに使用されます。たとえば、デスクトップのオペレーティング システムのライセンス コストと人件費など、特定のコストが仮想マシンに直接設定されます。これらはリソースの基準レートの一部ではなく、オペレーティング システム (ライセンスおよび作業) の見出しの下に分類されます。

[運用分析] の下のリソース テーブルにはコストの内訳が表示されます。内訳には、当月のコスト、トレンド、およびクラウド環境内での CPU、RAM、ストレージのパーセント値の合計、オペレーティング システム (ライセンスおよび作業) の消費状況が表示されます。リソースのコスト情報、生成された値の詳細、仮想マシンのコストは、データセンターごとにフィルタできます。また、[すべてのデータ センター] ドロップダウン リストを使用して、すべてのデータ センターのコストをまとめて表示することもできます。

基準レートと CPU 予想使用率の計算

vRealize Business for Cloud は、仮想マシンのコスト計算に使用できるように、CPU とメモリの基準レートを計算します。基準レートは、同種のプロビジョニング グループのクラスタごとに決定されます。したがって、基準レートはクラスタ間で異なる可能性があります。1 つのクラスタ内では同じです。vCenter Server 内のクラスタ化されていないホストは、ベンダー、モデル、および構成に応じてグループ化されます。データ センター モードが有効な場合、クラスタ化されていないホストはデータ センター内でグループ化されます。

- 1 vRealize Business for Cloud は最初に、コスト要因からクラスタの総コストをロードした状態を算出します。クラスタのコストが決定された後、さまざまなサーバ モデルの業界標準のコスト比率に基づいて、コストが CPU コストとメモリ コストに分割されます。

- 2 CPU 基準レートは次のように計算されます。まず、クラスタの CPU コストをクラスタの CPU 容量で割ります。続いて、仮想マシンに課金する実際の基準レートを算出するために、CPU 基準レートを CPU 予想使用率で割って CPU 基準レートを比例配分します。
- 3 メモリ基準レートは次のように計算されます。まず、クラスタのメモリ コストをクラスタのメモリ容量で割ります。続いて、仮想マシンに課金する実際の基準レートを算出するために、メモリ基準レートをメモリ予想使用率で割ってメモリ基準レートを比例配分します。
- 4 CPU とメモリの予想使用率を入力することも、ESXi ホストの 3 か月間の使用率平均に基づいて CPU とメモリの予想使用率を算出することもできます。

コスト使用率の編集

仮想インフラストラクチャでコストが配賦される方法を調整できます。クラウドにロードされた総コストは、ハードウェアコスト、オペレーティングシステムコスト、メンテナンスコスト、ネットワークコスト、人件費、設備コストなどを含みます。ユーザーは、これらのコストが仮想インフラストラクチャでどのように配賦されるかを制御できます。

[すべてのデータセンター] ドロップダウン リストを使用し、データセンターごとにコスト情報のフィルタリングと表示を行うことも、すべてのデータセンターのコスト情報をまとめて表示することもできます。

サーバ クラスタ情報の表示

vRealize Business for Cloud は、すべての ESXi ホストをクラスタ構成に応じて分類します。クラスタ化されていない ESXi ホストは、サーバモデル、CPU モデル、コア数、CPU 容量、メモリ サイズの 5 つのパラメータに基づいて分類されます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name>/vcac/org/tenant_URL (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [運用分析] の下で、[プライベート クラウド (vSphere)] をクリックします。
- 4 [使用率の編集] をクリックします。

サーバ クラスタ テーブルでは、クラスタ構成に基づいた情報が提供されます。

表 2-2. サーバ クラスタ

カテゴリ	説明
タイプ	クラスタ化されたグループか、またはクラスタ化されていないホストかを識別するアイコンが表示されます。
説明	クラスタの名前が表示されます。ESXi ホストがクラスタ化されていない場合、vRealize Business for Cloud はサーバ モデル、CPU モデル、コア数、CPU 容量、メモリ サイズを表示します。
データセンター名	サーバクラスタが存在するデータセンターの名前を表示します。
サーバ	クラスタに属するサーバの総数が表示されます。総数をクリックすると、サーバの IP アドレスと説明が表示されます。
容量の使用率	現在の月のクラスタの CPU および RAM のキャパシティ使用率が、GHz および GB 単位でそれぞれ表示されます。使用率は異なる色で表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 緑は使用されたキャパシティを表します ■ 白は割り当てられたキャパシティを表します ■ グレーは予約されていないキャパシティを表します
総コスト	クラスタの総コストが表示されます。
CPU 予想使用率	CPU 予想使用率が表示されます。CPU 予想使用率は、設定が可能です。詳細については、「 ホストの CPU とメモリの予想使用率の設定 」を参照してください。
メモリ予想使用率	メモリ予想使用率が表示されます。メモリ予想使用率は、設定が可能です。詳細については、「 ホストの CPU とメモリの予想使用率の設定 」を参照してください。
基準レート	定義済みの CPU 予想使用率の値に応じて、vRealize Business for Cloud はクラスタの基準レートを計算し、CPU および RAM の情報をギガヘルツおよびギガバイト単位（ドル）で表示します。
未配賦コスト	未使用の CPU 容量と RAM 容量を、CPU と RAM の基準レートで乗算することで算出されます。計算式は次のとおりです。 <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> $\text{unused capacity} = \text{total capacity} - (\text{used} + \text{reserved capacity}).$ </div>

注意 容量の合計が使用済み容量と予約済み容量の合計よりも少ない場合は、未使用の容量にはゼロが表示されます。

ホストの CPU とメモリの予想使用率の設定

ホストの CPU とメモリの予想使用率は、システムで定義された値（過去の平均を使用して算出）を使用するか、グローバル値を定義するか、クラスタ レベルごとに値を定義することで設定できます。この値は、仮想マシンのコスト配賦の計算に使用されます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [運用分析] の下で、[プライベート クラウド (vSphere)] をクリックします。
- 4 [使用率の編集] をクリックします。
- 5 [すべてのデータ センター] ドロップダウン リストを使用すると、CPU と RAM の基準レートを表示または編集するデータ センターを選択できます。
- 6 CPU とメモリの予想使用率を設定します。
 - 過去の平均を使用して CPU とメモリの予想使用率を算出した、システム定義済みの値を選択することができます。このオプションはデフォルトで選択されています。
 - パーセント値では、CPU とメモリの予想使用率として固定使用率を設定できます。このオプションを選択すると、入力した値がすべてのサーバ クラスタに適用されます。
 - 各クラスタの CPU とメモリの予想使用率は、[CPU 予想使用率 (%)] と [メモリ予想使用率 (%)] テキスト ボックスに値を入力して設定できます。オプションを選択し、[CPU 予想使用率 (%)] と [メモリ予想使用率 (%)] 列に移動して予想使用率を設定します。
- 7 [保存] をクリックします。

vRealize Business for Cloud は入力された値を使用して計算を実行し、サーバ クラスタのギガヘルツあたりのコストおよびギガバイトあたりのコストに関して、CPU と RAM の基準レートの更新を表示します。

vRealize Business for Cloud はまた、サーバ クラスタの未配賦コストも更新します。

仮想マシン コスト配賦

vRealize Business for Cloud は使用率コスト モデルを使用してコストを割り当てます。使用率コスト モデルは、仮想マシンのサーバ CPU とメモリ リソースの実際の使用率に合わせてコストを割り当てます。

基準レートの計算後、vRealize Business for Cloud は使用量などの仮想マシンの各種属性およびフォールトトレランスなどの仮想マシンの追加サービスを読み取り、各パラメータを使用してコストを計算します。コストは 1 日単位で計算され、月次コストの計算に追加されます。

[リソース コスト] ページの仮想マシンのリストは、仮想マシンが属するサーバの世代に応じて分類されます。仮想マシンが削除されると、その仮想マシンのコストは現在の月では考慮されません。世代とは、市場におけるサーバのリリース日を指します。たとえば、2009 年にリリースされたサーバでホストされている仮想マシンは、1 つのグループ見出しの下に表示されます。

サーバと仮想マシン情報の表示

環境内の仮想マシンの総コストとすべての仮想マシンの平均コストに関する情報を表示できます。また、特定の仮想マシンに関する CPU、RAM、ストレージのコストに関する詳細な情報も表示できます。

注意 コストを計算できる使用率がないため、月初のコストの値が 0 と表示されます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [費用] の下で、[プライベート クラウド (vSphere)] をクリックします。
- 4 [運用分析] の下で、[プライベート クラウド (vSphere)] をクリックします。
- 5 [コンピュート] タブを選択します。

クラウド環境内のすべてのライブ仮想マシンが、仮想マシンが属するサーバの世代ごとに表示されます。
- 6 ライブ仮想マシンの数が表示されているリンクをクリックします。

vRealize Business for Cloud は特定の世代に属するすべての仮想マシンを表示します。vCPU の数、CPU コスト、RAM コスト、ストレージ コスト、仮想マシンの直接コスト、選択した仮想マシンの総コストが表示されます。
- 7 仮想マシンが属する ESXi ホストの詳細、および仮想マシン リソース コストの履歴を表示するには、▶ アイコンをクリックします。

仮想マシンの名前や IP アドレス、構成、ホスト クラスタ情報が表示されます。仮想マシンのリソース コストの履歴はグラフで表示されます。グラフでは、X 軸が月、Y 軸がその月のコスト (ドル) を表します。
- 8 特定の世代に属するすべてのサーバを表示するには、サーバの数がリストされているリンクをクリックします。

ESXi ホスト名と説明が表示されます。
- 9 すべてのデータ ストアのリストとその詳細 (基準レート、総容量、使用済み容量、総コスト、未配賦コストなど) を表示するには、[ストレージ] タブを選択します。また、データ ストアが EMC SRM が管理するストレージアレイの一部 (EMC SRM 管理対象ストレージ) なのか、[ソース] フィールド内の値に基づいている (その他) かを判断することもできます。

パブリック クラウド情報の収集

vRealize Business for Cloud は、vCloud Air、AWS、および Microsoft Azure と統合され、課金の詳細な分析を提供します。vRealize Business for Cloud は、投資が vCloud Air、Amazon Web Services (AWS)、および Microsoft Azure に分散される方法の概要をユーザーに提供します。

この章では次のトピックについて説明します。

- [vCloud Air の概要](#)
- [Amazon Web Services の概要](#)
- [Microsoft Azure アカウントのコストの表示](#)

vCloud Air の概要

vCloud Air 概要は、アカウントやサービス コストなどの費用サマリと、サービス ID、クラウド サブスクリプションタイプまたはサービス オファリングでのコストの配分を表示するダッシュボードです。サービス ID の上位の費用の変化、仮想マシンの平均コスト、仮想マシンの状態、各状態にある仮想マシンの台数など仮想マシンのサマリを確認できます。

vCloud Air 概要には、仮想マシンの費用情報を提供するウィジェットが含まれています。

注意 vCloud Air アカウントが 6 か月以上前から追加されている場合、合計費用のトレンドには直近の 6 か月の費用のみが表示されます。そうでなければ、トレンドには vCloud Air が vRealize Business for Cloud に追加された月からの合計コストが表示されます。

- [総費用] - グラフは、当月の vCloud Air アカウントの現在の費用と予測される費用を示します。また、予測される vCloud Air 月次費用のトレンドを表すグラフも表示できます。
- [機能] - このグラフは、ストレージやその他のサービスまたは CPU、メモリ、帯域幅、パブリック IP アドレスなどのリソースの費用を示します。ストレージやサービスまたはリソースの割り当て済みコストと未割り当てコストも確認できます。
- [サービス ID] - このグラフは、各サービス ID の費用配分を示します。
- [サービス オファリング] - このグラフは、オンデマンド、Dedicated Cloud、Virtual Private Cloud、ディザスタリカバリなどの各 vCloud Air サービス オファリングの費用配分を示します。
- [サービス ID の最大の変化] - このグラフは、前月のコストと比較した、サービス ID の上位 3 つの費用変化を示します。

- [仮想マシン概要] - このグラフは、仮想マシンの台数と毎月の平均コストを示します。また、オン、オフ、一時停止、その他（状態が不明な場合）など、電源状態に基づく仮想マシンの台数も表示されます。

注意 パブリッククラウドおよびvCloud Airの予測される費用は、次の計算式を使用して計算されます。

Projected cost = A + ((B/24) * n)、ここで **A** は現時点でのコストの合計、**B** は前日のコスト、**n** は当月の残りの時間数です。

vCloud Air の料金の表示と編集

月ごとに集計された月次コストの合計およびサービス オファリングの種類を表示でき、サービス ID、サービス名、アカウント名などのアカウントの詳細も表示できます。デフォルトでは、割り当て済みと使用済みの容量および当月の未配賦コストを表示できます。列の非表示、ソート、固定、およびグループ分けによってビューを変更または編集することもできます。チャートで値を表示するレポートタイプを選択したり、特定の値を表示するフィルタを定義することもできます。

開始する前に

vRealize Business for Cloud で vCloud Air アカウントが追加されていることを確認します。
『vRealize Business for Cloud インストールおよび管理ガイド』を参照してください。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name><vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)

- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [費用] の下で、[ハイブリッドクラウド (vCloud Air)] をクリックします。
- 4 [料金] をクリックします。

サービス オファリングタイプ、サービス数、月次コストの合計を確認します。ビューを展開して、当月、アカウント名、サービス ID と名前、容量とコストの情報などサービスの詳細を表示できます。

- 5 コストを変更するには、[コストの編集] をクリックして、次の手順を実行します。
 - a [プラン] をクリックします。
デフォルトでは、利用可能なプランのリストが表示されます。
 - b 値を編集するプランの 1 つを選択するか、プランを複製し、変更を加える複製したプランを選択します。

注意 デフォルトの利用可能なプランを削除することはできません。ただし、複製したプランを削除することは可能です。

- c 単位数量および単価のフィールドの値を変更し、[保存] をクリックします。
- d コスト計算で新しい値を考慮するには、[SID] をクリックします。

- e [プラン] ドロップダウン リストから新しいプランまたは変更したプランを選択します。
 - f [保存] をクリックします。
- コスト計算に新しい値が適用されます。

仮想データセンターの情報の表示

vCloud Air アカウントでホストされている仮想データセンターの詳細を表示できます。表示される情報は、仮想データセンターの名前、アカウント名、サービス ID、データセンターの構成とコストの詳細などです。

開始する前に

vRealize Business for Cloud で vCloud Air アカウントが追加されていることを確認します。
『vRealize Business for Cloud インストールおよび管理ガイド』を参照してください。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [費用] の下で、[ハイブリッド クラウド (vCloud Air)] をクリックします。
- 4 [仮想データセンター] をクリックします。

仮想データセンターの構成情報とコスト情報が表示されます。表示される情報は、データセンター名、アカウント名、CPU、メモリとストレージの使用済み容量と構成済み容量、未配賦、配賦済み、および合計の月次コストなどです。

vCloud Air 仮想マシン情報の表示

vCloud Air アカウントでホストされている仮想マシンの詳細を表示できます。このレポートには、仮想マシン名、アカウント名、サービス ID、仮想マシンが属している仮想データセンターの名前、仮想マシンの状態、構成の詳細、コストの詳細などの情報が含まれます。

開始する前に

vRealize Business for Cloud で vCloud Air アカウントが追加されていることを確認します。
『vRealize Business for Cloud インストールおよび管理ガイド』を参照してください。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - `https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL>` (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - `https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name/itfm-cloud>` (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [費用] の下で、[ハイブリッドクラウド (vCloud Air)] をクリックします。
- 4 [仮想マシン] をクリックします。

仮想マシンの詳細と構成およびコスト情報が表示されます。

カテゴリ	フィールド名
全般情報	<ul style="list-style-type: none"> ■ 仮想マシン名 ■ アカウント名 ■ サービス ID
ソース情報	<ul style="list-style-type: none"> ■ 仮想マシンが属する仮想データセンターの名前 ■ 仮想アプライアンス名 ■ 組織名
追加情報	<ul style="list-style-type: none"> ■ 仮想マシンで稼動しているオペレーティングシステム ■ サービス オファリング タイプ ■ タグの詳細 ■ 仮想マシンの状態 (パワーオン、パワーオフ、サスペンド、または不明のいずれか)
構成情報	割り当て済みの CPU、メモリ サイズ、ストレージ サイズ
コスト情報	<ul style="list-style-type: none"> ■ 価格設定ポリシー名 ■ 総額 ■ 仮想マシンの月次コストの合計。

Amazon Web Services の概要

Amazon Web Services の概要では、推定月次費用の合計、アカウントごとの費用、サービスごとの費用配分、仮想マシン サマリを表示できます。

Amazon Web Services の概要には、費用の詳細を表示するためのウィジェットが含まれています。

注意 費用の合計トレンドは、アカウントがいつ vRealize Business for Cloud に追加されたかに関わらず、課金のコストに基づいた直近 12 か月の費用の合計を示します。

- [費用の合計]: このグラフは、vRealize Business for Cloud で構成されているすべての Amazon Web Services アカウントの推定月次費用の合計を示します。また、月次費用のトレンドを確認することもできます。
- [サービス]: このグラフは、すべてのアカウントについて各種サービスに配分されている推定費用を示します。
- [アカウント]: このグラフは、各アカウントの推定費用の割合を示します。

- [EC2 コストの内訳]：このグラフは、Amazon Elastic Compute Cloud (EC2) サービスの費用配分を表示します。EC2 サービスの費用には、予約モデルのコスト、需要モデルのコスト (PAYG)、課金に表れない他のコストが含まれます。
- [アカウントの最大の变化]：このグラフは、前月の費用と比較した場合の費用の上位 3 つの変化を示します。
- [仮想マシン概要]：このグラフは、仮想マシンの合計数と平均月次費用を示します。また、それぞれの電源状態 (停止、実行中、または終了) に応じた仮想マシンの数、各状態の仮想マシンの数、各状態の仮想マシンのコストを示します。

注意 パブリック クラウドおよび vCloud Air の予測される費用は、次の計算式を使用して計算されます。

Projected cost = A + ((B/24) * n)、ここで **A** は現時点でのコストの合計、**B** は前日のコスト、**n** は当月の残りの時間数です。

AWS 料金の表示

AWS 月次コストの合計を、各サービスのサービス名とリソース数でグループ分けして表示できます。サービスとアカウントの詳細およびコストの詳細も表示できます。列を非表示、ソート、固定およびグループ分けしてビューを変更または編集できます。チャートで値を表示するレポートタイプを選択したり、特定の値を表示するフィルタを定義することもできます。

開始する前に

vRealize Business for Cloud で AWS アカウントが追加されていることを確認します。『vRealize Business for Cloud インストールおよび管理ガイド』を参照してください。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name>/vcac/org/tenant_URL (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [費用] の下で、[パブリック クラウド (AWS)] をクリックします。
- 4 [料金] をクリックします。

サービス名、リソース数、月次コストの合計を確認します。ビューを展開して、アカウント、サービス ID、名前、アベイラビリティ ゾーン、タグ、最後に表示した情報、リソースの存在、コスト情報などサービスの詳細を表示できます。

注意 各 AWS サービスはデフォルトで、**Service Cost** という名前のエントリを持ちます。これは、リソースに関連付けられていないサービスの固定コストです。

Amazon Web Services インスタンスの情報の表示

サービス、アカウントのコスト、価格、可用性情報など、AWS アカウントにホストされている仮想マシンの詳細を表示できます。

開始する前に

vRealize Business for Cloud で AWS アカウントが追加されていることを確認します。『vRealize Business for Cloud インストールおよび管理ガイド』を参照してください。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [費用] の下で、[パブリック クラウド (AWS)] をクリックします。
- 4 [インスタンス] をクリックします。

AWS アカウントに構成されている仮想マシンのすべての詳細が表示されます。この情報には、アカウントの ID と名前、インスタンス タイプ、仮想マシンの状態、仮想マシンの可用性ゾーン、タグ、最後に確認された状態の情報、価格設定ポリシー名と総額、仮想マシンの直接コストおよび仮想マシンで発生したその他のコスト、仮想マシンの存在が含まれます。

EC2 および EBS サービスの合計コストおよび運用統計情報の表示

Amazon Elastic Compute Cloud (EC2) サービスおよび Elastic Block Store (EBS) の総コストと運用の統計情報を vRealize Business for Cloud で表示できます。

開始する前に

vRealize Business for Cloud で AWS アカウントが追加されていることを確認します。『vRealize Business for Cloud インストールおよび管理ガイド』を参照してください。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [費用] の下で、[パブリック クラウド (AWS)] をクリックします。

4 [EC2/EBS] をクリックして、EC2 および EBS サービスの詳細情報を表示します。

セクション	説明
ヘッダー	現在の月の EC2 の総コスト、EC2 インスタンスの総数、EBS ボリュームの総数といった情報を表示します。
コストのサマリ	vRealize Business for Cloud で構成されたすべての EC2 インスタンスの月次費用の合計の傾向、および EC2 インスタンスのタイプ全体での費用の分布（たとえば t2.micro、m3.medium、c3.large、m3.xlarge など）を表示します。
EC2 のサマリ	使用されているインスタンスおよび CPU 使用率の最も少ないインスタンスの数に基づいた上位 5 つの EC2 インスタンス タイプを表示します。
EBS のサマリ	過去 30 日間の分単位のディスク I/O 操作をグラフィカルに表示し、また、上位 5 つの最大サイズの EBS ボリュームを表示します。
ネットワーク操作数	過去 30 日間のネットワークでのデータの送受信量（バイト）をグラフィカルに表示します。

Microsoft Azure アカウントのコストの表示

Windows Azure アカウントを追加すると、vRealize Business for Cloud はそのアカウントで発生したクラウド コストの合計を表示します。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name><vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [インフラストラクチャ] で [パブリック クラウド (Azure)] をクリックします。
クラウド コストの情報は複数のウィジェットに分類されます。

注意 コストの合計トレンドは、アカウントがいつ vRealize Business for Cloud に追加されたかに関わらず、課金のコストに基づいた直近 12 か月のコストの合計を示します。

ウィジェット	説明
クラウド コスト	追加した Azure アカウントで発生したコストの合計が表示されます。
仮想マシンの平均コスト	各仮想マシンで発生した平均コストが表示されます。平均コストは、追加したすべてのアカウントの仮想マシンにクラウド コストの合計を均等に配分することによって計算されます。
アカウント	追加したアカウントへのクラウド コストの合計の配分が表示されます。
サービス タイプ	追加したアカウント上における全サービスに関するクラウド コストの合計の配分が表示されます。

- 4 サービス タイプに関する詳細情報を表示するには、[コストの詳細] ペインからサービス タイプをクリックします。
サービス タイプの使用量の詳細が表示されます。情報は、使用タイプ、開始時刻 - 終了時刻、使用量、総コストで分類されます。

消費分析

消費分析では、リソースを消費している消費者、リソースを消費している目的、リソースに関連するコストの特定が試行されます。

vRealize Business for Cloud は、ビジネス ユニットに基づいて消費者を分類します。

この章では次のトピックについて説明します。

- [価格設定ポリシーについて](#)
- [消費料金の表示](#)
- [ビジネス ユニット リストの表示](#)
- [ビジネス ユニット ヒート マップの表示](#)
- [ショーバックの詳細情報の表示](#)
- [仮想マシンの料金、容量およびアップタイム情報の表示](#)
- [仮想マシンの日次価格レポートの生成](#)
- [仮想マシンの電源状態の変更を表示する](#)
- [追加サービスの表示](#)
- [vRealize Business for Cloud における ESXi 以外の物理サーバのコスト計算のサポート](#)
- [vRealize Automation で定義されているデフォルトの vRealize Business for Cloud ユーザー](#)

価格設定ポリシーについて

vRealize Business for Cloud は、コスト計算に基づいて価格設定ポリシーを自動生成できます。これらのポリシーはデフォルトで、プライベートクラウド、パブリッククラウド、およびハイブリッドクラウドの価格設定に関する推奨事項を提供します。これらの推奨事項は変更可能です。

注意 価格設定ポリシーでは、Azure のコストは考慮されません。

価格設定ポリシーにより、vRealize Automation との統合が実現し、vRealize Automation コスト プロファイルが置き換えられます。vRealize Business for Cloud は、vRealize Automation によってプロビジョニング済みの仮想マシンの価格を計算します。KVM、OpenStack、Hyper-V など、vRealize Business for Cloud が監視していない仮想マシンも対象となります。vRealize Automation のカタログ ユーザー インターフェイスから、vRealize Business for Cloud のポリシー ベースの価格を確認できます。

vRealize Automation が vRealize Business for Cloud で構成されている場合、vRealize Automation 内のすべてのインフラストラクチャの価格設定は vRealize Business for Cloud で構成する必要があります。

vRealize Business for Cloud 価格設定ポリシーは、仮想ストレージ エリア ネットワーク (Virtual SAN) が認識したデータストアを除外し、Virtual SAN カテゴリ内でグループ化することで、Virtual SAN のコストをストレージ自体の費用と切り離して処理します。

vRealize Business for Cloud の仮想マシンは、vRealize Automation、vCenter Server、vCloud Director の場合のようにエンドポイント ポリシー、または [すべて取得] ポリシーの下にグループ化されるポリシーに基づいて評価されます。

各仮想マシンは、ポリシーの階層を通過し、単一のポリシーにマッピングされます。

注意 複数の NIC が vRealize Business for Cloud 仮想アプライアンスに存在する場合、**security.properties** ファイルを編集し、正しいホスト名 (証明書の共通名) を指定して **vcbm.host** パラメータを更新し、pricing-api サービスを再起動する必要があります。

vRealize Automation との価格設定統合

vRealize Automation が vRealize Business for Cloud で構成されている場合、vRealize Automation 内のすべてのインフラストラクチャの価格設定は vRealize Business for Cloud で構成する必要があります。

vRealize Business for Cloud は vRealize Automation 6.x および 7.x のバージョンに異なる方法で価格設定情報を提供します。

vRealize Automation におけるコスト計算

■ vRealize Automation 6.x におけるコスト計算

vRealize Business for Cloud が vRealize Automation 6.x と統合されている場合、vRealize Business for Cloud はメモリ (GB) および仮想 CPU の価格設定情報をホストごとに、またはクラスタ単位で提供します。vRealize Business for Cloud は、vRealize Business for Cloud で構成された価格設定ポリシーに基づいて価格を計算し、vRealize Automation に提供します。価格計算は、特定のホストまたはクラスタにあるすべての仮想マシンの平均日次価格に基づいて決まります。vRealize Automation はこれらの価格値を使用してコスト プロファイルに入力します。詳細については、『vRealize Automation』を参照してください。

■ vRealize Automation 7.x におけるコスト計算

vRealize Business for Cloud は vRealize Automation 7.x と緊密に統合されています。vRealize Automation 7.x で新しいマシンをプロビジョニングする場合、vRealize Automation は vRealize Business for Cloud と通信してマシンの初期価格を取得します。vRealize Business for Cloud はこれらの初期価格を vRealize Business for Cloud で定義された価格設定ポリシーに基づいて計算します。価格設定ポリシーは予約、予約ポリシー、およびブループリントに基づいて定義されます。また、vRealize Business for Cloud では、運用コスト、1 回限りのコスト、およびカスタム プロパティのコストをモデル化することもできます。

vRealize Automation に向けた vRealize Business for Cloud における価格設定とショーバック

■ vRealize Automation 6.x と統合された場合の vRealize Business for Cloud の価格設定

vRealize Automation 6.x と統合された場合、vRealize Business for Cloud ではコンピュータのグループ分け方法として予約のみをサポートし、vRealize Business for Cloud ではストレージのグループ分け方法としてストレージ パス ベースの価格設定をサポートします。

■ vRealize Automation 7.x と統合された場合の vRealize Business for Cloud の価格設定

7.x バージョンと統合された場合、vRealize Business for Cloud ではコンピュータのグループ分け方法として、ブループリント、予約、予約ポリシーに基づいた価格設定をサポートします。さらに、vRealize Business for Cloud ではストレージのグループ分け方法として、ストレージ パスおよびストレージ予約のポリシーをサポートします。

仮想マシンの価格の追加または編集

プライベート、パブリック、およびハイブリッドクラウド環境にある仮想マシンの価格を変更または定義できます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [消費] の下で、[価格設定と請求] をクリックします。
- 4 [価格設定] を選択して、[編集] をクリックし、[価格設定の編集] を選択します。
- 5 変更するインフラストラクチャ タブを選択します。
選択したタブによって、ポリシー オプションは異なります。
- 6 ポリシー タイプを展開して、ポリシー オプションを表示します。

[インフラストラクチャ] タブ	オプション
プライベート クラウド (vSphere)	vSphere 仮想マシン <ul style="list-style-type: none"> ■ [カスタム ポリシー] ■ [vRealize Automation] ■ [カスタム ポリシー] ■ [vCloud Director] ■ [カスタム ポリシー] ■ [vCenter Server] ■ [すべて取得ポリシー] その他のプライベート クラウド サービス <ul style="list-style-type: none"> ■ [ネットワーク サービス]
パブリック クラウド (AWS)	<ul style="list-style-type: none"> ■ [カスタム ポリシー] ■ [vRealize Automation] ■ [カスタム ポリシー] ■ [Amazon EC2] ■ [すべて取得ポリシー]

【インフラストラクチャ】タブ	オプション
ハイブリッド クラウド (vCloud Air)	<ul style="list-style-type: none">■ [カスタム ポリシー]■ [vRealize Automation]■ [カスタム ポリシー]■ [vCloud Air]■ [すべて取得ポリシー]
その他のクラウド プロバイダ	<ul style="list-style-type: none">■ [カスタム ポリシー]■ [vRealize Automation]■ [すべて取得ポリシー]

注意

注意 スタンドアロン モードで vRealize Business for Cloud を使用する場合、[vRealize Automation] と関連するオプションは表示されません。

7 自動生成ポリシーを変更します。

操作	手順
カスタム ポリシーの作成または変更	<p>特定の仮想マシンについて価格を正確に設定するには、カスタム ポリシーを作成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> カスタム ポリシーを追加するには、[カスタム ポリシー]を展開して、[追加]をクリックし、コンピュートまたはストレージ ポリシーの価格を入力してから、[保存]をクリックします。詳細については、このガイドの「コンピュートおよびストレージ ポリシーの追加または変更」セクションを参照してください。 カスタム ポリシーを変更するには、変更するカテゴリ タイプの [カスタム ポリシー] を展開し、リストからポリシーを選択して必要な変更を加え、[保存] をクリックします。詳細については、このガイドの「コンピュートおよびストレージ ポリシーの追加または変更」セクションを参照してください。 ID インフラストラクチャを編集するには、インフラストラクチャ オプションの横にある [編集] をクリックして必要な変更を加えます。詳細については、このガイドの「識別名の編集 - インフラストラクチャ」セクションを参照してください。 対応するフィールドでレート インラインを変更します。 追加サービスの計算方法とレートを追加するには、[追加サービス] オプションの横にある [編集] をクリックします。詳細については、このガイドの「追加サービス コストの追加または編集」セクションを参照してください。 [有効] または [無効] を選択して、カスタム ポリシーを有効または無効にするか、リストのポリシー エントリの横にある対応するオプションをクリックします。また、リストのポリシーをサスペンド、クローン、または削除することができます。 リストのポリシーをドラッグアンドドロップして、ポリシーのランクを変更します。 <p>注意 自動生成されたポリシーを有効化、削除、または変更することはできません。</p> <p>注意 vRealize Automation、vCenter Server、vCloud Director、Amazon EC2、vCloud Air などの各ソースには、個別のカスタム ポリシー セクションがあります。</p>
クラウド プロバイダ ポリシー（プライベート、パブリック、またはハイブリッドおよびその他）の変更	<ol style="list-style-type: none"> インフラストラクチャのグループ分け方法を変更するには、タイトル バーにある [編集] をクリックして必要な変更を加えます。詳細については、「グループ構成の編集」セクションを参照してください。 レートを変更するには、リストを展開して、[コンピュート] タブまたは [ストレージ] タブを選択し、レートを変更してから、[保存] をクリックします。詳細については、このガイドの「コンピュートおよびストレージ ポリシーの追加または変更」セクションを参照してください。 追加サービスの計算方法とレートを追加するには、[追加サービス] の横にある [編集] をクリックします。詳細については、このガイドの「追加サービス コストの追加または編集」セクションを参照してください。

コンピュートおよびストレージ ポリシーの追加または変更

価格設定ポリシーを追加または編集し、そのポリシーを使用して、仮想マシンのコストを決定することができます。

手順

- vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)

- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [消費] の下で、[価格設定と請求] をクリックします。
- 4 [価格設定] を選択して、[編集] をクリックし、[価格設定の編集] を選択します。
- 5 [プライベート クラウド (vSphere)] タブを選択します。
- 6 ポリシー、カスタム ポリシー、またはプライベート クラウド プロバイダを展開します。
- 7 [コンピュート] タブまたは [ストレージ] タブを選択します。
- 8 [カスタム ポリシーの追加] ページで次の手順を実行します。
 - a ポリシー名を入力します。
 - b インフラストラクチャを選択するには、[インフラストラクチャ] オプションの横にある [編集] をクリックします。詳細については、このガイドの「識別名の編集 - インフラストラクチャ」セクションを参照してください。
 - c ポリシーのコンピュートのレートとストレージのレートを入力します。ストレージ ポリシーを使用して、ストレージ価格を決定することができます。
 - d 追加サービスの計算方法とレートを追加するには、[追加サービス] の横にある [編集] をクリックします。詳細については、このガイドの「追加サービス コストの追加または編集」セクションを参照してください。

注意 どの価格設定に基づいて運用コストが決定されたかを確認できます。運用コストは、仮想マシンの使用率に基づいた現在の平均日次コストです。

 - e [保存] をクリックします。

価格設定ポリシーが作成されます。このポリシーはデフォルトで無効になっています。つまり、非アクティブです。非アクティブなポリシーは、価格設定中に適用されません。

 - f [有効] を選択し、ポリシーを有効にします。

ポリシーを無効にするには、[無効] を選択します。

グループ構成の編集

各データソースのグループ分け方法を定義または編集できます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - `https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL>` (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - `https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud>` (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [消費] の下で、[価格設定と請求] をクリックします。
- 4 [価格設定] を選択して、[編集] をクリックし、[価格設定の編集] を選択します。

5 変更するインフラストラクチャ タブを選択します。

選択したタブによって、ポリシー オプションは異なります。

6 データソース バーで [編集] をクリックします。

[グループ構成] ウィンドウが開きます。

7 [グループ構成] ウィンドウで次の手順を実行します。

a グループのステータスを有効または無効にします。

b ドロップダウン リストからグループ分け方法を選択します。

選択したデータソースに基づいて、グループ分け方法のオプションが入力されます。

データソース	グループ分け方法のオプション
vCenter Server	コンピュートのグループ分け方法 <ul style="list-style-type: none"> ■ [クラスタ] ■ [リソース プール] ストレージのグループ分け方法 <ul style="list-style-type: none"> ■ [ストレージ プロファイル] ■ [ストレージ タイプ] ■ [データストア] ■ [データストア クラスタ] ■ [ストレージ ポリシー]
vCloud Director	コンピュートのグループ分け方法 <ul style="list-style-type: none"> ■ [組織]
vRealize Automation	コンピュートのグループ分け方法 <ul style="list-style-type: none"> ■ [vRealize Automation の予約] ■ [vRealize Automation 予約ポリシー] ■ [vRealize Automation ブループリント] <p><small>注意 vRealize Automation 6.x バージョンに統合されている場合、vRealize Business for Cloud は vSphere 予約のみをサポートします。</small></p> ストレージのグループ分け方法 <ul style="list-style-type: none"> ■ [vRA ストレージ予約ポリシー] ■ [ストレージ パス] <p><small>注意 vRealize Automation 6.x バージョンに統合されている場合、vRealize Business for Cloud は [ストレージ パス] の分類をサポートしません。</small></p>
Amazon EC2	コンピュートのグループ分け方法 <ul style="list-style-type: none"> ■ [Amazon アカウント] ■ [Amazon インスタンス タイプ]
AWS	サービスのグループ分け方法 <ul style="list-style-type: none"> ■ [Amazon サービス名]
vCloud Air	コンピュートのグループ分け方法 <ul style="list-style-type: none"> ■ [vCloud Air アカウント] ■ [vCloud Air 仮想データセンター]

識別名の編集 - インフラストラクチャ

価格設定ポリシーのインフラストラクチャ タイプを選択できます。選択したインフラストラクチャに基づいて、ポリシーは現在のインフラストラクチャの仮想マシンの価格を設定します。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name>/vcac/org/tenant_URL (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)

2 [Business Management] をクリックします。

3 [価格設定] を選択して、[編集] をクリックし、[価格設定の編集] を選択します。

4 変更するインフラストラクチャ タブを選択します。

選択したタブによって、ポリシー オプションは異なります。

5 ポリシー カテゴリを選択して、既存のポリシーを選択するか、[追加] をクリックして、ポリシーを作成します。インフラストラクチャを選択します。

vRealize Business for Cloud は、選択したインフラストラクチャで利用できるインフラストラクチャ タイプをリストします。

- 6 インフラストラクチャを選択するには、[インフラストラクチャ] オプションの横にある [編集] をクリックし、インフラストラクチャ ソース、インフラストラクチャ タイプ、およびインフラストラクチャの選択をクリックします。

インフラストラクチャ	オプション
[コンピュータ価格設定ポリシー]	<p>vCenter Server の場合、ポリシーは以下に基づきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [クラスタ] ■ [リソース プール] <p>vCloud Director の場合、ポリシーは以下に基づきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [組織] <p>vRealize Automation の場合、ポリシーは以下に基づきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [予約] ■ [予約ポリシー] ■ [ブループリント] ■ [その他] vRealize Automation で仮想マシンのプロビジョニングを行っている間に複数の予約がある場合、vRealize Business for Cloud で初期コストが 1 つの値ではなく、ある範囲の値で表示されます。 <hr/> <p>注意 スタンドアロン モードで vRealize Business for Cloud を使用する場合、[vRealize Automation] と関連するオプションは表示されません。</p> <hr/> <p>Amazon EC2 の場合、ポリシーは以下に基づきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [Amazon アカウント] ■ [Amazon インスタンス タイプ] <p>vCloud Air</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [vCloud Air アカウント] ■ [vCloud Air 仮想データセンター] <p>AWS の場合、ポリシーは [Amazon サービス名] に基づきます。</p>
[ストレージ価格設定ポリシー]	<p>vCenter Server の場合、ポリシーは以下に基づきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [データストア] ■ [プロファイル] ■ [ストレージ タイプ] ■ [データストア クラスタ] ■ [ストレージ ポリシー] <p>vRealize Automation の場合、ポリシーは以下に基づきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [ストレージ予約ポリシー] ■ [ストレージ パス] <hr/> <p>注意 vCloud Director では、[ストレージ価格設定ポリシー] を利用できません。</p>

インフラストラクチャの リストから名前を選択します。
 選択

- 7 [保存] をクリックします。

サービスの追加

価格設定ポリシーをカスタマイズするための追加コストを追加できます。

仮想インフラストラクチャの person 費およびオペレーティング システムの person 費のデフォルトの設定については、[\[vRealize Business for Cloud のデフォルト設定の表示とアップデート\]](#) を参照してください。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - `https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL>` (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - `https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name/itfm-cloud>` (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [価格設定] を選択して、[編集] をクリックし、[価格設定の編集] を選択します。
- 4 変更するインフラストラクチャ タブを選択します。
選択したタブによって、ポリシー オプションは異なります。
- 5 既存のポリシーを選択するか、[追加] をクリックして、カスタム ポリシーを作成します。
- 6 [追加サービス] オプションの横にある [編集] をクリックします。
- 7 [追加サービス] ウィンドウの追加オプションをクリックします。
- 8 識別名リストからインベントリ項目を選択します。
選択に基づいて、[タグ値] フィールドに入力されます。

注意

- Fault Tolerant プロパティの価格は、vCenter Server にのみ存在する仮想マシンの場合に追加することができます。価格は、他のエンドポイントの一部であるフォールトトレラント仮想マシンの場合はサポートされません。
- デフォルトで、仮想インフラストラクチャの person 費およびオペレーティングシステムの person 費のレートを設定するかどうかを構成することができます。これらのレートを設定するには、`update-config.py` ユーティリティを使用して `pricing.additional.createByDefault` プロパティを `<true>` に設定する必要があります。

- 9 リストからタグ値を選択します。
- 10 次のいずれかの計算方法を選択します。

オプション	説明
固定	このポリシーまたはタグに関連付けられている特定の仮想マシンの定義済みレートを設定します。この方法は、毎日同じままになります。
コンピュータに対する割合 (%)	コンピュータ コストに加えて、定義済みのパーセント値を追加します。
ストレージに対する割合 (%)	ストレージ コストに加えて、定義済みのパーセント値を追加します。
総コスト (%)	コンピュータ コストおよびストレージ コストに加えて、定義済みのコストパーセント値を追加します。
固定の都度払い料金	最初のデプロイ後、最初の月に定義済みのレートを仮想マシンに追加します。したがって、この料金がワンタイム セットアップのコストになります。

- 11 仮想マシンの価格設定ポリシーを更新するためのパーセント レートまたはレートを入力します。

12 [保存] をクリックし、追加サービスのコストを仮想マシンに保存します。

ネットワーク価格の追加と編集

ビジネスユニットによって消費されるネットワーク サービスについて、固定料金と繰り返し発生する料金を追加し、これらの料金を 1 つ以上のビジネスユニットに関連付けることができます。vRealize Business では、これらの料金を追加サービスとして分類します。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - `https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL>` (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - `https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud>` (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [消費] の下で、[価格設定と請求] をクリックします。
- 4 [価格設定] を選択して、[編集] をクリックし、[価格設定の編集] を選択します。
- 5 [プライベート クラウド (vSphere)] をクリックします。
- 6 [ネットワーク サービス] セクションを展開します。

デフォルトでは、[Edge Gateway]、[弾性 IP アドレス]、[ファイアウォール]、[ロード バランサ]、[VPN] の 5 つのサービスが表示されます。
- 7 新しいネットワーク サービスに料金を適用するためのポリシーを追加します。
 - a [追加] をクリックします。
 - b [ポリシーの追加] ページで、ポリシーの名前を入力します。
 - c ポリシーの都度払い料金と繰り返し発生する料金を指定します。
 - d [保存] をクリックします。

[ネットワーク サービス] の下に新しいポリシーが表示されます。

注意 新しいネットワーク価格ポリシーを追加した後、このポリシーを編集して、ビジネスユニットにマッピングする必要があります。

- 8 ポリシーを編集して、ビジネスユニットにマッピングします。
 - a [ネットワーク サービス] で、編集するポリシーを展開します。
 - b [編集] をクリックします。
 - c [追加サービス] ウィンドウの追加アイコンをクリックします。
 - d ネットワーク価格をマッピングするビジネスユニットを選択します。

1 つのネットワーク ポリシーに対して複数のビジネスユニットを選択できます。

- e ビジネス ユニットが利用しているネットワーク インスタンスの数を入力します。
- f [保存] をクリックします。

入力する価格は、マッピング対象のインスタンス数で乗算され、[ショーバック]-[追加サービス]に表示されます。

9 ポリシーの料金を変更します。

- a [ネットワーク サービス] で、編集するポリシーを展開します。
- b 都度払い料金および繰り返し発生する料金の値を変更します。
- c [保存] をクリックして料金を保存します。

追加する料金は、[ショーバック] セクションの [追加サービス] に反映されます。

クロスインフラストラクチャ ポリシーの作成

vRealize Business for Cloud は、ポリシーへの追加サービスを制限せずに、クロスインフラストラクチャ ポリシーをサポートします。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [価格設定] を選択して、[編集] をクリックし、[価格設定の編集] を選択します。
- 4 変更するインフラストラクチャ タブを選択します。

選択したタブによって、ポリシー オプションは異なります。
- 5 [クロスインフラストラクチャ ポリシー] をクリックします。
- 6 [追加サービス] ウィンドウの追加オプションをクリックします。

7 識別名リストからインベントリ項目を選択します。

選択に基づいて、[タグ値] フィールドに入力されます。

注意

- Fault Tolerant プロパティの価格は、vCenter Server にのみ存在する仮想マシンの場合に追加することができます。価格は、他のエンドポイントの一部であるフォールトトレラント仮想マシンの場合はサポートされません。
- デフォルトで、仮想インフラストラクチャの人員費およびオペレーティングシステムの人員費のレートを設定するかどうかを構成することができます。これらのレートを設定するには、update-config.py ユーティリティを使用して `pricing.additional.createByDefault` プロパティを `<true>` に設定する必要があります。

8 リストからタグ値を選択します。

9 次のいずれかの計算方法を選択します。

オプション	説明
固定	このポリシーまたはタグに関連付けられている特定の仮想マシンの定義済みレートを設定します。この方法は、毎日同じままになります。
コンピュータに対する割合 (%)	コンピュータ コストに加えて、定義済みのパーセント値を追加します。
ストレージに対する割合 (%)	ストレージ コストに加えて、定義済みのパーセント値を追加します。
総コスト (%)	コンピュータ コストおよびストレージ コストに加えて、定義済みのコストパーセント値を追加します。
固定の都度払い料金	最初のデプロイ後、最初の月に定義済みのレートを仮想マシンに追加します。したがって、この料金がワンタイムセットアップのコストになります。

10 仮想マシンの価格設定ポリシーを更新するためのパーセント レートまたはレートを入力します。

11 [保存] をクリックし、追加サービスのコストを仮想マシンに保存します。

クロスインフラストラクチャの値は、各ポリシーの追加サービス セクションにグレーで表示されます。この値を編集したり、[クロスインフラストラクチャ ポリシー] リンクから削除したりできます。

コストを見積もるための予算の編集

vRealize Business for Cloud に追加された消費者用の予算を設定できます。デフォルトでは、消費者の予算設定は無効になっています。

開始する前に

[ビジネス ユニット リスト] で消費者分類を定義済みであることを確認します。[「ビジネス階層の編集」](#) を参照してください。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [消費] の下で、[価格設定と請求] をクリックします。
- 4 [ビジネス ユニット リスト] - [編集] の順にクリックします。
- 5 [予算の編集] を選択します。
- 6 [消費者の予算決定を有効にする] オプションを選択します。
- 7 予算のタイプを選択します。
特定の月次、四半期、または年次の予算を更新できます。
特定の年次の予算を更新すると、金額は各月に等しく配分されます。四半期の予算を更新すると、金額は選択した四半期に含まれる 3 か月に配分されます。
- 8 必要な消費者のテーブルに予算値を入力します。
- 9 (オプション) [エクスポート] をクリックし、予算データを XLS 形式でエクスポートします。
データが月次ベースでエクスポートされます。
- 10 (オプション) [インポート] をクリックして XLS 予算ファイルを選択し、更新された予算値をインポートします。

注意 XLS ファイルは月次形式のみである必要があります。

- 11 (オプション) [テンプレートの取得] をクリックし、予算値を更新するためのテンプレート ファイルを取得します。このファイルは後でインポートできます。
- 12 [保存] をクリックし、更新された予算値を保存します。

消費料金の表示

消費料金は、ビジネス ユニットの月次料金トレンドを表示するダッシュボードです。料金とコストを比較したり、料金値が上位の消費者のリストを表示して上位 3 つの消費者を特定したりできます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)

- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [消費] の下で、[価格設定と請求] をクリックします。
- 4 [請求] を選択します。

注意 6 か月分を超えるデータがある場合、トレンドでは、過去 12 か月の値が表示されます。6 か月以下の場合、トレンドには過去 6 か月分のデータ、またはデータが参照可能な月度のデータが表示されます。

表 4-1. コスト情報を含むさまざまなウィジェットが表示されます。

ウィジェット	説明
月次の料金	すべてのビジネス ユニットの料金値の合計が表示されます。グラフには、すべてのビジネス ユニットの月次の料金トレンドが表示されます。料金は、仮想マシンの構成と仮想マシンに対して定義された価格設定ポリシーに基づいて計算されます。
消費者別のコスト/料金	<p>当月の料金とコストの差額を表示できます。この差額により、リカバリステータス（リカバリ超過またはリカバリ内）が決定されます。</p> <p>注意 料金がコストを上回る場合、この差額はリカバリ超過と呼ばれます。料金がコストを下回る場合、この差額はリカバリ内と呼ばれます。</p> <p>ウィジェットの最初のグラフは、年間のリカバリトレンド（データポイントに基づく）を表します。</p> <p>ウィジェットの 2 番目のグラフは、料金とコストの経時的な比較をグラフ形式で表します。</p>
上位のビジネス ユニット	このグラフには、料金が最も高い消費者ビジネス ユニットの上位 3 つが表示されます。残りの消費者は [その他の消費者] にグループ化されます。
リカバリのマージン	このグラフには、料金とコストに関して上位の利用者が表示されます。

注意 消費料金では、Azure のコストは考慮されません。

ビジネス階層の編集

仮想インフラストラクチャのコストをさまざまな消費者へ配分する詳細な方法を確認することができます。これにより、企業内のさまざまな消費者グループの比較と予算決定が容易になります。vRealize Business for Cloud のビジネス ユニットに基づいて、仮想マシンを定義またはマッピングできます。vCenter Server、vRealize Automation、および vCloud Director の階層に応じて、消費者リストを分類できます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。

- 3 [消費] の下で、[価格設定と請求] をクリックします。
- 4 [ビジネスユニット リスト] を選択します。
- 5 [編集] メニューから、[ビジネス階層の編集] をクリックします。
- 6 データソースバーで [編集] をクリックし、各階層のグループ分け方法を定義または編集します。
[グループ構成] ウィンドウが開きます。

7 次の手順を実行して、各グループ分け方法を構成します。

- a グループのステータスを有効または無効にします。
- b ビジネス ユニットまたはビジネス サービスのグループ分け方法を選択します。

データソース	グループ分け方法
vRealize Automation	<ul style="list-style-type: none"> ■ ビジネス ユニットの場合、[ビジネス グループ] を選択します。 <p>vRealize Automation にあるビジネス グループに応じて、グループ分けまたは分類が実行されます。各テナントは事業部門と見なされ、各ビジネス グループはビジネス ユニットとしてリストされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ビジネス サービスの場合、[ブループリント] を選択します。
vCloud Director	<ul style="list-style-type: none"> ■ ビジネス ユニットの場合、[組織] または [仮想データセンター] を選択します。 ■ ビジネス サービスの場合、[vApp] を選択します。
vCenter Server	<p>ビジネス ユニットおよびビジネス サービスの場合、ルールを設定するか、CSV ファイルをアップロードして、グループ分け方法を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ルールを設定している場合は、次のいずれかのオプションに従ってビジネス ユニートを定義します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ フォルダで分類します。たとえば、BU_ で始まる名前またはラベルのフォルダ。 ■ vCenter Server の階層レベルですべてのフォルダを選択します。 <p>注意 選択したフォルダのレベルは、vCenter Server の [仮想マシンおよびテンプレート] ビューのフォルダに対応します。このオプションを選択すると、vRealize Business for Cloud は、フォルダ内の仮想マシンを特定し、フォルダと同じレベルの仮想マシンを無視します。vCenter Server の [仮想マシンおよびテンプレート] ビューで指定されているフォルダ構造に関係なく、すべての仮想マシンを表示するには、[タグによって分類] または [仮想マシン名で分類] オプションを使用する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ タグによって分類 - タグ ファミリを持つ仮想マシンを選択します。 ■ 仮想マシン名で分類 <p>注意 グループ パターンを括弧で囲んで入力します。たとえば、名前の最初または最後に vRB がある仮想マシン名をリストするには、((vRB)(.*)) または ((.*)vRB) をそれぞれ入力します。名前のどこかに vRB がある仮想マシンをすべてリストするには、((.*)vRB)(.*) を入力します。</p> ■ CSV ファイルをアップロードする場合は、[アップロード] をクリックし、有効な CSV ファイルを選択します。 <p>アップロードする CSV ファイルには、見出しの下に、vmMoid、vcServerUUID、および businessUnitName の情報が含まれている必要があります。</p>
Amazon Web Services	グループ分け方法として [アカウント名] を選択します。
vCloud Air	グループ分け方法として [サービス ID] を選択します。

c [保存] をクリックします。

8 ビジネス ユニットの論理名を変更するには、次の手順を実行します。

- a データソース セクションまたはグループを展開します。
- b 変更する論理名をクリックします。

- c ビジネス ユニットの名前を変更します。
- d [保存] をクリックします。

ビジネス ユニットの定義が変更された場合、vRealize Business for Cloud はデータを更新します。

ビジネス ユニットのユーザーへの割り当て

[ロールの割り当て] オプションを使用して、1 つ以上のビジネス ユニットをユーザーに割り当てることができます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [消費] の下で、[価格設定と請求] をクリックします。
- 4 [ビジネス ユニット リスト] を選択します。
- 5 [編集] メニューから、[ビジネス階層の編集] をクリックします。
- 6 [ビジネス ユニット] タブの下で、[ロールの割り当て] をクリックします。
- 7 [ユーザー] セクションで、ビジネス ユニットを割り当ててるユーザーを選択します。
- 8 [ビジネス ユニット] セクションで、ビジネス ユニット名をクリックして、選択したユーザーに割り当てます。同じアクションを実行して、ユーザーに割り当てたビジネス ユニットを削除することができます。
- 9 [保存] をクリックします。

ビジネス ユニット リストの表示

さまざまなデータ ソースのビジネス ユニットに関する情報を確認できます。この情報には、各ビジネス ユニットの仮想マシン数、リソース (CPU、RAM、ストレージ、オペレーティング システム) のコスト配分が含まれます。横棒グラフの上にマウスを置くと、各リソースのコスト値が表示されます。また、すべてのビジネス ユニットの総コスト、合計予算、および料金値も表示できます。プライベート クラウドまたはパブリック クラウド、あるいはそれら両方のビジネス ユニットを使用できます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)

- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [消費] の下で、[価格設定と請求] をクリックします。
- 4 [ビジネス ユニット リスト] を選択します。

ビジネス ユニット (論理名) とそのコスト情報のリストを確認します。デフォルトでは、論理名はビジネス ユニットの名前と同じです。

注意 情報には、プライベート クラウドとパブリック クラウド両方の詳細が含まれます。

- 5 ビジネス ユニット名をクリックして、仮想マシンやそのストレージの詳細、追加のサービスやコスト、料金と予算の情報などの詳細を表示します。
- 6 列名の横にあるドロップダウン矢印をクリックして、ビジネス ユニット リスト ビューを編集します。
 - [昇順にソート] または [降順にソート] を選択し、列のエントリをソートします。
 - [カラム] をクリックし、ビジネス ユニット リスト ビューに表示する列を選択します。

ビジネス ユニットの詳細の表示

ビジネス ユニットの詳細ページには、特定のビジネス ユニットに関連する固有の情報が表示されます。この情報には、個々のビジネス ユニットのコスト、予算および料金の値、CPU RAM、ストレージおよびオペレーティング システムの料金配分、特定のビジネス ユニットのコストと料金を比較したトレンドが含まれます。また、ビジネス ユニットの仮想マシンと追加サービスに関する情報も提供します。

注意 コストを計算できる使用率がないため、月初のコストの値が 0 と表示されます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - `https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL>` (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - `https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud>` (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [消費] の下で、[価格設定と請求] をクリックします。
- 4 [ビジネス ユニット リスト] を選択し、ビジネス ユニット名をクリックします。

選択したビジネス ユニットに関するコスト、料金、および予算のすべての情報が表示されます。ビジネス ユニットの料金配分およびコストと料金を比較したトレンドを確認できます。
- 5 [仮想マシン] タブをクリックし、ビジネス ユニットにある仮想マシンとその詳細のリストを表示します。
- 6 [追加サービス] タブをクリックし、仮想マシンに起因しない料金値を表示します。

注意 追加サービスには、AWS のみに関連する情報が含まれます。

ビジネスユニット ヒート マップの表示

ビジネスユニット ヒート マップを使用すると、ビジネスユニットが予算超過または予算内か、リカバリ超過またはリカバリ内かを簡単に確認できます。ビジネスユニットを表すブロックの数も確認でき、各ブロックのヒントには値が表示されます。

開始する前に

予算値を設定していることを確認します。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - `https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL>` (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - `https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud>` (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)

2 [Business Management] をクリックします。

3 [消費] の下で、[価格設定と請求] をクリックします。

4 [ビジネスユニット マップ] を選択します。

ビジネスユニット情報を含む複数のウィジェットが表示されます。

ウィジェット	説明
予算超過	設定済みの予算値を超過している (料金が予算を上回っている) ビジネスユニットの総数が表示されます。
予算内	予算値を下回っているビジネスユニットの総数が表示されます。
リカバリ超過	料金値がコスト値を超過しているビジネスユニットの総数が表示されます。
リカバリ内	料金値がコスト値を下回っているビジネスユニットの総数が表示されます。

5 別のビジネスユニットを表す別のブロックを表示するには、ウィジェットを選択します。

各ビジネスユニット ブロックのサイズはリカバリの絶対量を表し、色合いまたは濃淡はリカバリのパーセント値を表します。各ブロックの上にマウスを置くと、ヒントに値が表示されます。

ショーバックの詳細情報の表示

ショーバックの詳細情報は、お使いの環境のビジネスユニットとビジネスサービスの情報、当月の予測される月額料金とその月の予算に関する情報を提供します。仮想マシンとサービスの料金値は、価格設定ポリシーに基づきます。

ショーバックの詳細情報は、管理者とテナント コントローラが使用できます。

手順

- 1 テナント管理者またはテナント コントローラとして vRealize Business for Cloud にログインします。
- 2 [Business Management] をクリックします。

- 3 [消費] の下で、[ショーバック] をクリックします。
- 4 [ショーバックの詳細情報] をクリックします。

ショーバックの詳細情報には複数の情報が含まれています。

注意 6 か月分を超えるデータがある場合、トレンドでは、過去 12 か月の値が表示されます。6 か月以下の場合、トレンドには過去 6 か月分のデータ、またはデータが参照可能な月度のデータが表示されます。

ウィジェット	説明
ビジネス ユニット	料金値を持つすべてのビジネス ユニットが表示されます。各ビジネス ユニットをクリックすると、そのビジネス ユニットに関連付けられている料金値が表示されます。
月次の予算	当月の合計予算が表示されます。予算が有効でない場合、 N/A と表示されます。
過去 1 か月の料金	当月の料金値の合計が表示されます。
予測される月次の料金	当月の予測される料金を表示します。
料金予測	今月のこれまでの料金と料金トレンドが表示されます。比較のために予算値も表示されます。
料金と予算	過去 6 か月または過去 12 か月（データが利用できる場合）の料金と予算の比較と、当月の値が表示されます。
上位のビジネス サービス	その他のビジネス サービスを含む、料金に関する上位 6 つのビジネス サービスが表示されます。
予算超過/予算内	上位のビジネス ユニットが表示され、予算値と比較されます。
プライベートクラウドの再利用	オーバーサイジング、パワーオフ、およびアイドル状態の仮想マシンの料金が表示されます。この情報は、再要求して環境内の他のオブジェクトにプロビジョニングできるリソースの量、または各月に達成できる潜在的な削減量を把握するのに役立ちます。 各項目の値をクリックすると、その料金に紐づけられた仮想マシンに関する情報が表示され、リソースを最も効果的に使用するための推奨事項を確認できます。

[ユーザー選択] および [ビジネス ユニット] ドロップダウン オプションも表示されます。デフォルトでは、すべてのユーザーのショーバックに関する詳細が表示されます。ただし、これらのドロップダウン オプションの値を選択すると、ページは、選択された値に対する特定のデータで更新されます。インフラストラクチャ データにビジネス ユニット情報が含まれない場合、[ユーザー選択] オプションは表示されません。[ビジネス ユニット] ドロップダウン リストは、[ユーザー選択] リストで選択する値に基づいて入力されます。

注意 ビジネス ユニット ドロップダウンは、テナント コントローラでは利用できません。

仮想マシンの料金、容量およびアップタイム情報の表示

プライベート環境およびパブリック クラウド環境両方に属する仮想マシンのリスト、および仮想マシンの料金や仮想マシンに関連付けられたビジネス ユニットなど、仮想マシンの詳細を vRealize Business for Cloud に表示することができます。また、仮想マシンの CPU、RAM およびストレージ容量と、vCenter Server 仮想マシンの毎月のパワーオン状態のアップタイム（時間）を表示することもできます。

開始する前に

情報の表示に使用する vCenter Server、vCloud Director、または vRealize Automation 階層を定義して分類します。階層の分類方法については、「[ビジネス階層の編集](#)」を参照してください。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [消費] の下で、[ショーバック] をクリックします。
- 4 [データ セット] で [仮想マシン] をクリックします。

デフォルトでは、当月の値が表示されます。他の月のデータを表示するには、フィルタをクリアする必要があります。

vRealize Business for Cloud に仮想マシン名と当月の料金合計が表示されます。これには、仮想マシンに関連付けられているビジネス ユニットとビジネス サービス、仮想 CPU の数、構成されている RAM とストレージが含まれます。CPU、RAM、ストレージおよび追加料金 (追加サービスをもとに算出) に関連する料金情報を表示することができます。[削除済み] 列を使用して、仮想マシンが存在するか削除済みかを識別することができます。また、[毎月のアップタイム] 列を使用すると、特定の月に vCenter Server 仮想マシンが実行されていた時間も確認できます。

仮想マシンの日次価格レポートの生成

vCenter Server 仮想マシンに登録されたすべての vRealize Business for Cloud の価格が記載されたレポートを生成できます。レポートには、過去 3 か月における仮想マシンの日次価格が表示されます (利用可能な場合)。

開始する前に

vRealize Business for Cloud に vCenter Server が追加されていることを確認します。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [消費] の下で、[ショーバック] をクリックします。
- 4 [データ セット] で [仮想マシン] をクリックします。
- 5 [日次価格レポート] をクリックします。

過去 3 か月の vCenter Server 仮想マシンとその日次価格のリストが表示されます。

仮想マシンの電源状態の変更を表示する

特定の月における毎日の vCenter Server 仮想マシンの電源状態と、該当する時間を表示できます。これは、課金の際に仮想マシンの料金の差を調整するために役立ちます。

開始する前に

vRealize Business for Cloud に vCenter Server が追加されていることを確認します。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - `https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL>` (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - `https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud>` (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)

2 [Business Management] をクリックします。

3 [消費] の下で、[ショーバック] をクリックします。

4 [データ セット] で [仮想マシン] をクリックします。

5 テーブルの右にスクロールして、[毎月のアップタイム (時間)] 列を表示します。

6 vCenter Server 仮想マシンの毎月のアップタイム値をダブルクリックします。

仮想マシンがパブリック クラウドまたは vCenter Server 以外のプライベート クラウドの一部である場合、または仮想マシンが特定の月にパワーオンされなかった場合には、次のメッセージが表示されます。

この仮想マシンのアップタイムのサンプルがありません。この仮想マシンは vCenter Server の仮想マシンでないか、当月は一度もパワーオンされていません。

特定の月における毎日の仮想マシンの電源状態とその時間に関する詳細情報が表示されます。

追加サービスの表示

価格設定ポリシーに追加したすべての追加サービスに関する情報を確認できます。

開始する前に

価格設定ポリシーに追加サービスを追加します。[「サービスの追加」](#) を参照してください。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - `https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL>` (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - `https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud>` (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)

- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [消費] の下で、[ショーバック] をクリックします。
- 4 [データ セット] で、[追加サービス] をクリックします。

デフォルトでは、当月の情報が表示されます。他の月のデータを表示するには、フィルタをクリアする必要があります。

仮想マシンに追加した追加サービス名のリストが、各サービスの月間料金合計とともに表示されます。また、月、ビジネス ユニット名、サービスが属しているアカウント ID も確認できます。

- 5 [編集] をクリックし、次の操作を実行して編集します。

オプション	説明
カラム	<ul style="list-style-type: none"> ■ [表示] カラムの下で、レポート フィールド名を選択して、ビューで表示または非表示にします。 ■ フィールドをロックまたはロック解除して、ビューで位置を固定します。 ■ フィールド値を昇順または降順でソートします。
グループ分けとグラフ	<ul style="list-style-type: none"> ■ [カラムごとにグループ化] ドロップダウン リストからレポート フィールド名を選択し、選択したカラム名に基づいてレポートをグループ化します。 ■ [関数のカラム] ドロップダウン リストからレポート フィールド名を選択して、[関数] ドロップダウン リストから最大、最小、平均、合計などの操作を選択し、グループのサマリを表示します。 ■ [レポート グラフ] オプションを選択して、レポート タイプをクリックし、値に基づいてチャートを作成します。
フィルタ	<ul style="list-style-type: none"> ■ [クロス カラム フィルタ] 検索ボックスに検索文字列または値を入力し、[OK] をクリックします。自動入力リストから値を選択することもできます。 ■ [追加] をクリックして、フィルタを作成し、[フィルタの追加] ウィンドウで、フィールド名を選択し、値をフィルタする対象に応じてフィルタ条件を指定します。[追加] をクリックします。 ■ フィルタを変更するには、テーブルからフィルタを選択し、編集オプションをクリックします。新しいフィルタ条件を入力し、[設定] をクリックします。 ■ フィルタを削除するには、テーブルからフィルタを選択し、削除オプションをクリックします。

- 6 [OK] をクリックして変更内容を保存します。
- 7 [フィルタをクリア] をクリックして、定義したフィルタ条件をクリアします。
- 8 [保存] をクリックして、定義したフィルタが記載されたレポートを保存し、値が更新されたフィルタを後で表示します。
- 9 特定の情報でフィルタするには、検索フィールドに文字列を入力するか、文字列の一部を入力して自動入力リストから値を選択します。
vRealize Business for Cloud は、検索文字列に基づいて、結果をフィルタして表示します。
- 10 [エクスポート] をクリックして、Microsoft Excel ファイルに値を保存します。
画面に表示される値が保存された **.xls** ファイルがダウンロードされます。

vRealize Business for Cloud における ESXi 以外の物理サーバのコスト計算のサポート

vRealize Business for Cloud では、vRealize Automation 6.x で管理されている物理サーバのコスト計算がサポートされています。vRealize Business for Cloud では、各物理サーバが 1 台の巨大な仮想マシンとして管理されます。

vRealize Automation 6.x 環境に物理サーバが含まれる場合、vRealize Business for Cloud はコスト計算中にすべての物理サーバのコストを考慮します。物理サーバはすべて、[物理サーバ DC] と呼ばれるデータ センターの下でグループ化されます。

消費者分類が vRealize Automation 分類に基づいていない場合には、物理サーバは [その他のカテゴリ] に表示されます。

vRealize Business for Cloud では、vRealize Automation 6.x で管理されている物理サーバの次のプロパティは収集されません。

- CPU ベンダーと説明
- モデルの説明
- NIC 枚数
- OS 名
- CPU パッケージの数と CPU の数
- CPU の周波数

注意 vRealize Business for Cloud が vRealize Automation 7.x と統合されている場合は、ESXi 以外の物理サーバのコスト計算はサポートされません。

vRealize Automation で定義されているデフォルトの vRealize Business for Cloud ユーザー

vRealize Business for Cloud はある種のロールを vRealize Automation で定義して、消費者の情報を編集または変更します。[]

次の vRealize Business for Cloud ロールおよびそれらの責任は vRealize Automation で定義されています。

ロール	責任
ビジネス マネジメント 管理者	ユーザーには vRealize Business for Cloud で更新を実行する権限があります。ただし、vRealize Business for Cloud にエンドポイントを追加するユーザーは、vRealize Automation からテナント 管理者ロールを取得する必要があります。
ビジネス マネジメント コントローラ	このユーザーは IT 消費者のサブセットを担当して、消費者に課金される価格を表示できます。これらのロールをもつユーザーが表示できるのはショーバックの詳細情報のみです。さらに、これらのユーザーは料金を表示できますが、ビジネス ユニットのサブセットのコストは表示できません。 ビジネス ユニットのビジネス マネジメント コントローラ ユーザーにマップできます。ビジネス ユニットのマップする方法については、「 ビジネス階層の編集 」を参照してください。

vRealize Business for Cloud でのクラウドモデルの比較

5

[クラウド比較] オプションを使用すると、vRealize Business for Cloud に仮想マシン グループを追加したり、プライベート クラウドからインポートしたりして、コストを比較することができます。

vRealize Business for Cloud は、プライベート クラウド内の仮想マシン グループのコストを、パブリック クラウドモデル内の同様なグループのコストと比較します。仮想マシン構成を変更すると、すべてのサービス モデルでコストが更新されます。vRealize Business for Cloud は、単一の仮想マシンの CPU コア、CPU 速度、RAM、価格プラン、接続時間、オペレーティングシステム、およびグループストレージのネットワーク接続型ストレージ (NAS) とストレージ エリア ネットワーク (SAN) に基づいて、プライベート クラウドの仮想マシン コストを算出します。

vRealize Business for Cloud は、最小の CPU とメモリでの構成要件を取得し、要求されたオペレーティングシステム、地域、ポリシーで利用可能な価格を入手するためにインスタンスタイプを検索します。

この章では次のトピックについて説明します。

- [クラウド コストの比較](#)
- [クラウド比較情報の表示](#)
- [プライベート クラウド プロバイダとパブリック クラウド プロバイダの比較](#)
- [クラウドへの新しい仮想マシンの追加によるクラウド コストの比較](#)
- [プライベート クラウドの仮想マシンを使用したクラウド コストの比較](#)
- [データ センターの比較](#)
- [データ センターの管理](#)
- [仮想マシン グループの表示または編集](#)
- [仮想マシン グループの削除](#)
- [クラウド比較情報のリセット](#)
- [データセンターの最適化情報の表示](#)

クラウド コストの比較

プライベート クラウドの仮想マシンのコストを表示してから、そのコストを Amazon Web Services、Microsoft Azure、および vCloud Hybrid Service パブリック クラウドの価格モデルと比較できます。

vRealize Business for Cloud は、まずプライベート クラウドの費用を使用して、プライベート クラウド内で完全に新規の仮想マシンを実行した場合または既存の仮想マシンを実行した場合のコストを見積もります。次に、Amazon Web Services、Microsoft Azure、および vCloud Hybrid Service クラウド モデルで同じ構成を使用した場合のコストの比較を表示します。

クラウド比較情報の表示

vRealize Business for Cloud では、仮想マシン グループをプライベート クラウド環境内で実行する場合のコストと、vRealize Business for Cloud に追加した他のパブリック クラウド内でグループを実行する場合のコストを比較できます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [プラン] の下で、[クラウドの比較] をクリックします。
- 4 (オプション) クラウド比較情報を表示するデータ センターを選択します。

選択したデータ センターについて、プライベート クラウドと他のパブリック クラウドとのコスト比較情報が表示されます。

デフォルトでは、[クラウド全体で新しい仮想マシンを比較] に関する情報が表示されます。

vRealize Business for Cloud は、2 コア、1.6GHz CPU、3.5GB RAM 構成のサンプル グループを表示します。

vRealize Business for Cloud は、その構成に適した最小価格のクラスとストレージを表示します。

プライベート クラウド プロバイダとパブリック クラウド プロバイダの比較

vRealize Business for Cloud でプライベート クラウド プロバイダとパブリック クラウド プロバイダのコストを比較し、仮想マシンのコストを計画できます。

開始する前に

自分のパブリック クラウドと比較する場合は、パブリック クラウドを追加します。詳細については、『vRealize Business のインストールおよび管理ガイド』を参照してください。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [クラウドの比較] をクリックします。
- 4 [クラウド全体で新しい仮想マシンを比較] または [クラウド全体で既存の仮想マシンを比較] を選択します。
- 5 [クラウド プロバイダの管理] をクリックします。
- 6 プライベート クラウドと比較するクラウド プロバイダをドラッグ アンド ドロップします。
自分のパブリック クラウドを追加している場合は、スクロールしてドラッグ アンド ドロップします。
- 7 [完了] をクリックします。

[新しい仮想マシンをクラウドと比較] リンクと [既存の仮想マシンをクラウドと比較] リンクの vRealize Business for Cloud [クラウドの比較] タブに選択済みのアカウントが追加され、それに応じて選択済みの仮想マシンのコスト計算が更新されます。

クラウドへの新しい仮想マシンの追加によるクラウド コストの比較

クラウド コストは、プライベート クラウドに新しい仮想マシンを追加することによっても、既存の仮想マシンをテンプレートとして使用することによっても比較できます。vRealize Business for Cloud では、プライベート クラウドや vRealize Business for Cloud に追加およびインポートした他のパブリック クラウド プロバイダ (Amazon Web Services、Microsoft Azure、vCloud Hybrid Service など) で同じような構成の仮想マシンを実行した場合のコストが計算されて表示されます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [プラン] の下で、[クラウドの比較] をクリックします。
- 4 [クラウド全体で新しい仮想マシンを比較] を選択します。
- 5 (オプション) コストの比較と分析の対象となる仮想マシンが含まれるデータ センターを選択します。
- 6 [仮想マシン グループを追加] リンクをクリックし、新しい仮想マシン グループを追加します。

- 7 必要に応じて仮想マシンの設定を変更し、[保存] をクリックします。

新しい仮想マシン グループが追加されます。プライベート クラウドおよび vRealize Business for Cloud にインポートした他のパブリック クラウド プロバイダについて、対応するコスト詳細が更新されます。

注意 選択する場所はすべてのグループ構成に適用されます。以前の vRealize Business for Cloud の既存のグループ構成の場合は、上位の使用された場所がすべての構成に割り当てられます。各グループ構成に異なる場所を割り当てることはできません。

- 8 プライベート クラウドの仮想マシンをテンプレートとして使用する場合は、[現在の仮想マシンをテンプレートとして使用] リンクをクリックします。

- インポートする仮想マシンを参照して選択します。
- インポートする仮想マシンを検索して選択します。仮想マシンは、名前、タグ、またはフォルダで検索できます。

選択した仮想マシンが追加されます。プライベート クラウドと他のパブリック クラウド プロバイダについて、該当するコスト詳細が更新されます。複数の仮想マシンを選択すると、vRealize Business for Cloud では CPU、RAM、およびオペレーティングシステムの構成に応じて仮想マシンがグループ化され、グループ内の仮想マシンの数が表示されます。vRealize Business for Cloud では、参照オプションで選択した検索語句またはカテゴリに従って、グループに名前が付けられます。

クラスタとデータ ストアの選択

プライベート クラウドで実行予定のすべての構成について、複数のクラスタやクラスタ化されていない ESXi ホストとデータ ストアに必要な機能を設定できます。構成を実行するクラスタまたはデータ ストアは変更できます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [プラン] の下で、[クラウドの比較] をクリックします。
- 4 クラスタ構成を変更します。

[クラウド全体で新しい仮想マシンを比較] リンクを使用して、追加またはインポートされた仮想マシンのみを対象にクラスタ構成を変更できます。

- a 仮想マシン グループのクラスタを変更するには、クラスタ名またはホスト名が表示されているリンクをクリックします。

デフォルトでは、vRealize Business for Cloud は最低価格のクラスタを選択します。

- b [クラスタの選択] オプションをクリックします。

- c 仮想マシン グループに割り当てるクラスタを選択します。
 - d [保存] をクリックします。
- 5 データ ストア構成を変更します。
- a 仮想マシン グループのデータ ストア構成を変更するには、データストア名が表示されているリンクをクリックします。
デフォルトでは、vRealize Business for Cloud は最低価格のデータ ストアを選択します。
 - b [データストアの選択] オプションを選択します。
 - c 仮想マシン グループに割り当てるデータ ストアを選択します。
 - d [保存] をクリックします。

vRealize Business for Cloud により、選択されたクラスタまたはデータ ストアが仮想マシン グループに割り当てられます。クラスタやデータ ストアを変更した後に、グループ構成、クラスタ機能、またはデータ ストア機能を変更すると、選択したクラスタやデータ ストアがこの構成に適さなくなり、価格がデフォルトの最低価格に戻ります。

プライベート クラウドの仮想マシンを使用したクラウド コストの比較

クラウド コストは、プライベート クラウドから仮想マシンをインポートすることによって比較できます。vRealize Business for Cloud では、プライベート クラウドと、vRealize Business for Cloud にすでに追加およびインポートされている他のパブリック クラウド プロバイダ (Amazon Web Services、Microsoft Azure、vCloud Hybrid Service など) で同じように構成された仮想マシンを実行した場合のコストが計算されて表示されます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [プラン] の下で、[クラウドの比較] をクリックします。
- 4 [クラウド全体で既存の仮想マシンを比較] を選択します。
- 5 [仮想マシンのインポート] リンクをクリックし、インポートする仮想マシンを参照または検索します。仮想マシンは、名前、タグ、またはフォルダで検索できます。

インポート後、仮想マシンごとにそれ自身のグループが取得されます。選択した仮想マシンが追加されます。プライベート クラウドと他のパブリック クラウド プロバイダについて、該当するコスト詳細が更新されます。

データ センターの比較

構成済みのデータ センターのコストを比較し、仮想マシンをデプロイ可能なデータ センターについて検討できます。仮想マシン グループを作成し、データ センター間のコストを比較できます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)

- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [プラン] の下で、[クラウドの比較] をクリックします。
- 4 [データ センターの比較] を選択します。

vRealize Business for Cloud で、同じような構成の仮想マシンを各データ センターで実行するコストが計算され、表示されます。

- 5 [仮想マシンのインポート] リンクをクリックし、インポートする仮想マシンを参照または検索します。仮想マシンは、名前、タグ、またはフォルダで検索できます。
インポート後、仮想マシンごとにそれ自身のグループが取得されます。選択した仮想マシンが追加されます。対応するコスト詳細がデータ センターで更新されます。

データ センターの管理

仮想マシンのコストを計画する際に、vRealize Business for Cloud に追加された各データ センターのコストを比較できます。

開始する前に

比較するデータ センターを vRealize Business for Cloud に追加します。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 https://<vRealize_Automation_host_name>/vcac/org/tenant_URL> で、テナント管理者の認証情報を使用して vRealize Automation インターフェイスにログインします。
- 4 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)


- 5 [Business Management] をクリックします。
- 6 [プラン] の下で、[クラウドの比較] をクリックします。
- 7 [データ センターの比較] を選択します。
- 8 [データ センターの管理] をクリックします。
- 9 比較するデータ センターを vRealize Business for Cloud にドラッグ アンド ドロップします。
- 10 [完了] をクリックします。

[データ センターの比較] オプションで、選択したデータ センターが vRealize Business for Cloud に追加され、この結果、選択されている仮想マシンのコスト計算が更新されます。

仮想マシン グループの表示または編集

プライベート クラウド環境から追加またはインポートしたグループの仮想マシン設定を、表示または編集できます。vRealize Business for Cloud に追加したパブリック クラウド内の対応するコスト詳細が更新されます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [プラン] の下で、[クラウドの比較] をクリックします。
- 4 仮想マシンを表示または編集する比較オプションの 1 つを選択します。
- 5 設定を表示または編集するグループ名の横にある [グループの編集] アイコン  をクリックします。プライベート クラウドと他のパブリック クラウドの仮想マシンのコストが表示されます。

場所、仮想マシン数、CPU コア数、CPU 速度、RAM、グループストレージ情報などの一般的な設定は、画面上で直接変更できます。詳細設定を行う場合は、[詳細...] をクリックして [仮想マシン グループを編集] ダイアログボックスを開きます。
- 6 必要に応じて仮想マシンの設定を編集し、[保存] をクリックします。

プライベート クラウド内と他のパブリック クラウド内の仮想マシンに関連するコストが更新されます。

仮想マシン グループの削除

追加またはインポートした仮想マシン グループをプライベート クラウド環境から削除できます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [プラン] の下で、[クラウドの比較] をクリックします。
- 4 仮想マシン グループを削除する場所の比較オプションを選択します。
- 5  [グループの削除] アイコンをクリックします。

仮想マシン グループがそのコスト詳細とともに環境から削除されます。

クラウド比較情報のリセット

リセット機能を使用して、デフォルトの構成をリストアできます。リセット操作が終了すると、vRealize Business for Cloud によってデフォルト構成が表示されます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [プラン] の下で、[クラウドの比較] をクリックします。
- 4 [リセット] をクリックします。

[クラウド全体で新しい仮想マシンを比較] リンクでは、サンプル仮想マシン グループのデフォルトの構成 (2 コア、1.6GHz CPU、3.5GB RAM) がリストアされます。[クラウド全体で既存の仮想マシンを比較] リンクでは、追加された仮想マシン グループが vRealize Business for Cloud によってすべて削除されます。

データセンターの最適化情報の表示

vRealize Business for Cloud は、各データセンターへの可視性を提供し、データセンターの使用容量および残り容量のコストを視覚化します。コストは、vRealize Operations Manager から収集されたパーセント値に基づいて計算されます。コストは、コンピューター コストとストレージ コストに分類されます。

開始する前に

vCenter Server が vRealize Operations Manager と統合されていることを確認します。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name>/vcac/org/tenant_URL (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [プラン] セクションで [データセンターの最適化] をクリックします。

すべてのデータセンターのコンピューターコスト、ストレージコスト、および人件費の合計とデータセンターの合計月次コストが表示されます。データセンターごとの合計コストと各データセンターのコンピューターコスト、ストレージコスト、および人件費を確認できます。

vRealize Business for Cloud のレポート

vRealize Business for Cloud は、お使いのプライベート/パブリック クラウド環境に関する情報を表示する複数のレポートを提供します。

この章では次のトピックについて説明します。

- [vCenter Server レポートの表示](#)
- [vCloud Director レポートの表示](#)
- [vRealize Automation 仮想マシン レポートの表示](#)
- [ストレージ レポートの表示](#)
- [パブリック クラウド レポートの表示](#)
- [Cloud Business 分析レポートの表示](#)
- [履歴レポートの表示](#)
- [レポートの編集](#)
- [カスタム レポートの表示](#)
- [パブリック API を使用した vRealize Business for Cloud レポートの生成](#)

vCenter Server レポートの表示

サーバ、データストア、Virtual SAN データストア、仮想マシン、クラスタに分類される vCenter Server レポートをすべて表示できます。

vCenter Server のレポートの表示

サーバハードウェア、OS ライセンス、メンテナンス、物理サーバ人件費、ネットワーク、設備などの追加コストに基づいて分類された vCenter Server に関する情報を表示します。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - `https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL>` (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - `https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud>` (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [レポート] の下で、[vCenter Server] をクリックします。
- 4 [サーバ] を選択します。

vRealize Business for Cloud に、サーバ名、合計月次コスト、インフラストラクチャタイプ、vCenter Server エイリアスなどのサーバの詳細や、当該サーバのデータセンター名が表示されます。[削除済み] フィールドを使用して、サーバが存在するか削除済みかを識別することができます。

注意 [インフラストラクチャタイプ] フィールドは、物理サーバと ESXi サーバを識別するのに役立ちます。

オプション	説明
サーバハードウェアコスト	サーバの詳細に加え、プロセッサタイプ、メーカー、モデル名、CPU の速度 (GHz)、RAM (GB)、CPU の数、CPU コア、クラスタの説明、発売日に関するサーバハードウェアの詳細が vRealize Business for Cloud で表示されます。vRealize Business for Cloud はサーバハードウェアの月次コストの合計を計算して表示します。vRealize Business for Cloud はまた、環境内で動作しているサーバのロード済みコストの合計も表示します。
ライセンスコスト	サーバの詳細に加え、特定のサーバの仮想マシンで実行されているオペレーティングシステムおよび Windows デスクトップオペレーティングシステムに関するオペレーティングシステムのライセンス詳細が vRealize Business for Cloud で表示されます。特定のサーバのオペレーティングシステムの詳細には、ソケット数、各ソケットのコスト、オペレーティングシステム、Windows サーバコスト、Red Hat コスト、SUSE コスト、およびこのサーバ上で実行されている仮想マシンのその他のオペレーティングシステムのコストが含まれます。Windows デスクトップオペレーティングシステムの詳細には、デスクトップコストと Windows デスクトップコストの合計が含まれます。vRealize Business for Cloud はライセンスコストの合計を計算して表示します。
メンテナンスコスト	サーバの詳細に加え、ハードウェアおよびソフトウェアのメンテナンスコストに関するメンテナンスコストの詳細が vRealize Business for Cloud で表示されます。vRealize Business for Cloud はメンテナンスコストの合計を計算して表示します。
物理サーバ人件費	サーバの詳細に加え、物理サーバの作業時間と時間あたりのコストに関する物理サーバ人件費の詳細が vRealize Business for Cloud で表示されます。vRealize Business for Cloud は人件費の合計を計算して表示します。
ネットワークコスト	サーバの詳細に加え、ポート、各ポートのコスト、1 ギガビットおよび 10 ギガビットネットワークのネットワークコストの合計に関するネットワークコストの詳細が vRealize Business for Cloud で表示されます。vRealize Business for Cloud は、1 ギガビットと 10 ギガビットネットワークのネットワークコストの合計を加算して、合計ネットワークコストを計算して表示します。
設備コスト	サーバの詳細に加え、賃借料、電源、冷却の詳細が vRealize Business for Cloud で表示されます。vRealize Business for Cloud は設備コストの合計を計算して表示します。
追加コスト	サーバの詳細に加え、追加コストの詳細が vRealize Business for Cloud で表示されます。

vCenter Server レポートの列の詳細

このセクションでは、vCenter Server のレポート内の各列について説明します。

表 6-1. vCenter Server レポートのフィールド

フィールド名	説明	発生元	派生
vCenter Server エイリアス	vCenter Server 接続の記録の名前です。	vRealize Business for Cloud	[管理] - [ビジネス マネジメント] - [接続の管理] ページで vCenter Server に付与した名前です。
サーバ名	ESXi ホストの名前	vCenter Server	該当なし
データセンター名	vCenter Server が存在する仮想データセンターの名前	vCenter Server	仮想データセンターの名前
プロセッサタイプ	ESXi サーバの CPU のタイプです。	vCenter Server	該当なし
メーカー	ESXi サーバのメーカー名 (DELL、HP など) です。	vCenter Server	該当なし
モデル名	ESXi サーバのモデル名です。	vCenter Server	該当なし
CPU (GHz)	ESXi サーバ上で使用可能な CPU キャパシティ合計です。	vCenter Server	該当なし
RAM (GB)	ESXi 上で使用可能な RAM キャパシティ合計です。	vCenter Server	該当なし
CPU	ESXi サーバのプロセッサソケット数です。	vCenter Server	該当なし
CPU コア	サーバ上の CPU ソケット単位のコア数です。	vCenter Server	該当なし
クラスタ名	vCenter Server クラスタの名前です。サーバがクラスタ化されていない場合、ハードウェアサーバ構成が表示されます。	vCenter Server および vRealize Business for Cloud	ESXi サーバの実際の構成です。
発売日	この ESXi サーバモデルの販売日です。	リファレンス データベース	該当なし
ハードウェアコストの合計	当月の減価償却されたサーバのハードウェアコストです。	vRealize Business for Cloud	ハードウェアの購入コストおよび購入日付に基づいています。詳細については、『vRealize Business for Cloud インストールおよび管理ガイド』の「サーバハードウェアコストの減価償却の計算」のセクションを参照してください。
月次コストの合計	これらの ESXi サーバを実行するためにすべてのコスト要因によりもたらされる、すべてロードされたコストです。	vRealize Business for Cloud	コスト要因を ESXi サーバに設定することで計算されます。
インフラストラクチャタイプ	サーバが ESXi サーバであるか vRealize Automation から追加された物理サーバであるかどうかを指定します。	vRealize Automation	該当なし
削除済み	サーバが存在するかどうかを識別します。	vRealize Business for Cloud	該当なし

データ ストアのレポートの表示

ご使用の環境内で実行しているすべてのデータ ストアに関するレポートを表示できます。vRealize Business for Cloud はデータ ストアの詳細と月次コストの合計を表示します。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [レポート] の下で、[vCenter Server] をクリックします。
- 4 [データストア] を選択します。

vRealize Business for Cloud は、データストア名、データストアパス、ストレージタイプ、ストレージプロファイル、GBあたりの月次コスト、GBあたりの参照コスト、容量合計 (GB)、月次コストの合計などのデータストアの詳細を表示します。vRealize Business for Cloud はまた、vCenter Server エイリアス、データストアが属するデータセンター名も表示します。[削除済み] フィールドを使用して、データストアが存在するか削除済みかを識別することができます。

vCenter Server データストア レポートの列の詳細

このセクションでは、vCenter Server データストアのレポート内の各列について説明します。

表 6-2. vCenter Server データストアのレポートのフィールド

フィールド名	説明	発生元	派生
データストア名	データストアの名前です	vCenter Server	該当なし
vCenter Server エイリアス	vCenter Server 接続の記録の名前です。	vRealize Business for Cloud	[管理] - [ビジネス マネジメント] - [接続の管理] ページで vCenter Server に付与した名前です。
データセンター名	仮想マシンが存在する仮想データセンターの名前です	vCenter Server	vCenter Server にある仮想データセンターの名前です。
データストアパス	vCenter Server でのデータストアへのパスです	vCenter Server	該当なし
ストレージタイプ	データストアが存在する物理ストレージのタイプです	vCenter Server	該当なし
ストレージプロファイル	データストアが属する vCenter Server プロファイルです	vCenter Server	該当なし
GBあたりの月次コスト	データストア上のストレージの単価です	vRealize Business for Cloud	該当なし
GBあたりの参照コスト	データストア上のストレージ単位の参照コストです	リファレンス データベース	該当なし
合計 GB	データストアの合計容量です	vCenter Server	該当なし

表 6-2. vCenter Server データストアのレポートのフィールド (続き)

フィールド名	説明	発生元	派生
月次コストの合計	毎月のデータストアの総コストです	vRealize Business for Cloud	計算は 1 GB あたりの月次コスト × 合計 GB です
vCenter Server UUID	vCenter Server の一意な ID です	vCenter Server	vRealize Business for Cloud は、お客様の環境内の vCenter Server を一意に識別します。

Virtual SAN データストア レポートの表示

ご使用の環境内で実行している Virtual SAN データ ストアの詳細を表示できます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name><vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [レポート] の下で、[vCenter Server] をクリックします。
- 4 [vSAN データストア] を選択します。

vRealize Business for Cloud には、データ ストア名、vCenter Server エイリアス、データ ストアが属しているデータセンターの名前、クラスタ名などの Virtual SAN データ ストアの詳細が表示されます。[削除済み] フィールドを使用して、Virtual SAN が存在するか削除済みかを識別することができます。このレポートには、データストアのパス、SSD および HDD ディスクの数、GB あたりの月次コスト、キャッシュの GB あたりの月次コスト、キャッシュ容量、合計容量 (GB)、合計月次コストなどの追加情報も表示されます。

仮想マシンのレポートの表示

プライベートクラウド環境内で実行されているすべての仮想マシンの詳細を表示できます。これには、月次コストの合計および料金情報に加え、CPU の数、構成済みおよび予約済みの CPU と RAM のサイズ、vCenter Server 情報、ストレージのサイズとコスト、仮想マシンのバックアップ コストなどが含まれます。

vRealize Business for Cloud は、仮想マシンの詳細をグリッドまたは vCenter Server フォルダに表示します。


注意 コストを計算できる使用率がないため、月初のコストの値が 0 と表示されます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - `https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL>` (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - `https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name/itfm-cloud>` (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [レポート] の下で、[vCenter Server] をクリックします。
- 4 [仮想マシン] を選択します。
- 5 仮想マシン レポートの表示方法を選択します。

オプション	説明
仮想マシンをグリッド表示	仮想マシン レポートが表形式で表示されます。
仮想マシンを vCenter Server フォルダ構造で表示	すべての ESXi ホストがリストされている vCenter Server のフォルダ構造で仮想マシンが表示されます。

月次コストの合計に加え、仮想マシンの詳細、vCenter Server エイリアス、仮想マシンが属するデータセンター名が vRealize Business for Cloud で表示されます。vRealize Business for Cloud は、バックアップサービスに使用される各 vSphere Data Protection (VDP) 仮想マシンのコストを考慮します。また、コストは同じ vCenter Server 内の他の仮想マシン間で均等に配分されます。[削除済み] 列を使用すると、**Business Management Administrator** および **Business Management Controller** の両方について、仮想マシンが存在しているか、削除されているかを特定できます。[インフラストラクチャ タイプ] 列は、物理サーバと vCenter Server 仮想マシンを識別するのに役立ちます。

注意  アイコンは、ESXi 以外の物理サーバと ESXi サーバを区別するのに役立ちます。

vCenter Server 仮想マシン レポート列の詳細

vRealize Business for Cloud は、仮想インフラストラクチャのコストと使用量に関する多彩なレポートを提供します。このセクションでは、仮想マシン レポートの各列について説明します。

表 6-3. vCenter Server 仮想マシン レポートのフィールド

フィールド名	説明	発生元	派生
仮想マシン名	vCenter Server で仮想マシンに指定される名前	vCenter Server	vCenter Server で仮想マシンに指定される名前。
vCenter Server 名前	vCenter Server 接続の記録の名前です。	vRealize Business for Cloud の [接続の管理] 管理ページ	vRealize Business で接続を構成するときに vCenter Server 接続に指定される名前。
データセンター名	仮想マシンが存在する仮想データセンターの名前です	vCenter Server	vCenter Server にある仮想データセンターの名前です。
構成済み vCPU の数	仮想マシンに構成されている vCPU の数	vCenter Server	vCenter Server で仮想マシンに構成されている vCPU の数。

表 6-3. vCenter Server 仮想マシン レポートのフィールド (続き)

フィールド名	説明	発生元	派生
構成済み GHz の数	仮想マシンに構成されている CPU の GHz 数	vCenter Server	vCenter Server で仮想マシンに構成されている CPU の GHz の数。
構成済み RAM のサイズ (GB)	仮想マシンに構成されている RAM の量 (GB)	vCenter Server	vCenter Server で仮想マシンに構成されている RAM の量 (GB)。
予約済み GHz の数	仮想マシンの CPU 予約 (GHz)	vCenter Server	vCenter Server で仮想マシンに構成されている CPU 予約 (GHz)。
予約済み RAM のサイズ	仮想マシンの RAM 予約 (GB)	vCenter Server	vCenter Server で仮想マシンに構成されている RAM 予約 (GB)。
サーバ名	仮想マシンがプロビジョニング済みの物理ホストの名前	vCenter Server	仮想マシンがプロビジョニング済みの vCenter Server の物理ホストの名前。
データストア名	仮想マシンが使用しているデータストアの名前	vCenter Server	仮想マシンが使用している vCenter Server のデータストアの名前。
OS タイプ	仮想マシンで稼働している OS のタイプ	vRealize Business	OS 名の分析。
OS 名	仮想マシンで稼働している OS の名前	vCenter Server	vCenter Server で収集された、仮想マシンで稼働している OS の名前。
フォールトトレランス対応	vSphere Fault Tolerance を使用している仮想マシンを識別	vCenter Server	仮想マシンに vCenter Server でフォールトトレランスが構成されているどうか。
事業部門	選択された階層のレベル	vCenter Server または vRealize Automation または vCloud Director	消費者レポート向けに vRealize Business で階層のデータソースを構成します。
ビジネスユニット	選択された階層のレベル	vCenter Server または vRealize Automation または vCloud Director またはアップロード	消費者レポート向けに vRealize Business で階層のデータソースを構成します。
クラスタ名	仮想マシンが存在するクラスタの名前です。	vCenter Server	vCenter Server および関連する仮想マシンで構成されているクラスタです。
vCenter フォルダパス	仮想マシンが存在する vCenter フォルダの名前	vCenter Server	vCenter Server と関連の仮想マシンで構成されているフォルダ。
使用ストレージ (GB)	仮想マシンで使用されるストレージ容量 (GB)	vCenter Server	仮想マシンで使用されている、RDM を含む仮想マシンの合計ストレージ容量。ストレージがシン プロビジョニングの場合、使用ストレージの容量が反映されます。ストレージがシック プロビジョニングの場合、割り当てられた容量が反映されます。容量は、レポートが表示される日付に基づいて比例配分されます。
ストレージコスト (GB あたり)	毎月の GB あたりのストレージ レート	vRealize Business for Cloud	vRealize Business で構成されている GB あたりのストレージの月次コスト。ストレージの月次コストは、ストレージ プロファイルまたはストレージタイプで構成できます。
ストレージコストの合計	仮想マシンの月次ストレージコストの合計	vRealize Business	使用ストレージ * 1 GB あたりのストレージコストで算出され、値は最も近いセントに丸められます。

表 6-3. vCenter Server 仮想マシン レポートのフィールド (続き)

フィールド名	説明	発生元	派生
RAM 使用率 (GB) の計算	RAM の月次平均使用率	vCenter Server	vCenter Server から収集された仮想マシンの使用率情報。vRealize Business は、当月のすべての RAM 使用率メトリックの平均を取得します。
RAM レートの計算	RAM の GB あたりの月次レート	vRealize Business	テクニカル ホワイト ペーパー [VMware IT Business Management Suite Standard Edition – How It Works] を参照してください。
RAM コストの計算	仮想マシンの月次 RAM コストの合計	vRealize Business	テクニカル ホワイト ペーパー [VMware IT Business Management Suite Standard Edition – How It Works] を参照してください。
CPU 使用率 (GHz) の計算	CPU GHz の月次平均使用率	vCenter Server	vCenter Server から収集された仮想マシンの使用率情報。vRealize Business は、当月のすべての CPU GHz 使用率メトリックの平均を取得します。
CPU レートの計算	CPU の GHz あたりの月次レート	vCenter Server	テクニカル ホワイト ペーパー [VMware IT Business Management Suite Standard Edition – How It Works] を参照してください。
CPU コストの計算	仮想マシンの月次 CPU コストの合計	vRealize Business	テクニカル ホワイト ペーパー [VMware IT Business Management Suite Standard Edition – How It Works] を参照してください。
合計コストの計算	仮想マシンのコンピューティング リソースの合計コスト	vRealize Business	計算 : RAM コスト + CPU GHz コスト
OS 管理者の人件費 (時間)	OS インスタンスの月次作業時間	vRealize Business for Cloud	値は vRealize Business for Cloud で構成されます。値は OS タイプごとの月次時間数として構成できます。または OS タイプごとの OS 人件費の月次合計を構成できません。
時間あたりの OS 管理者の人件費	仮想マシンのオペレーティングシステム関連人件費の時間単価	vRealize Business for Cloud – クラウド コスト	vRealize Business for Cloud のクラウド コストで構成されているオペレーティングシステム管理者の人件費の設定。
OS 管理者の人件費の合計	仮想マシンの OS 管理者の人件費の月次合計	vRealize Business for Cloud	時間数 * 時間単価で算出され、最も近いセントに丸められます。
OS ライセンス コスト	仮想マシンが Windows デスクトップ OS を使用している場合の Windows デスクトップ ライセンスのコスト	vRealize Business for Cloud	vRealize Business for Cloud で構成されている Windows デスクトップ ライセンスのコスト。
メンテナンス コスト	仮想マシンが Windows デスクトップ OS を使用している場合の Windows デスクトップ メンテナンスのコスト	vRealize Business for Cloud	vRealize Business for Cloud で構成された OS ライセンスのメンテナンス率
仮想インフラ管理者の人件費 (時間)	仮想マシン 1 台あたりの月次作業時間	vRealize Business for Cloud – クラウド コスト設定	vRealize Business for Cloud の仮想インフラストラクチャ管理者の人件費における仮想マシン 1 台あたりの月次作業時間設定。

表 6-3. vCenter Server 仮想マシン レポートのフィールド (続き)

フィールド名	説明	発生元	派生
時間あたりの仮想インフラ管理者人件費	作業の時間単価	vRealize Business for Cloud – クラウド コスト設定	vRealize Business for Cloud の仮想インフラストラクチャ管理者の人件費における作業の時間単価設定。
仮想インフラ管理者の人件費の合計	仮想マシンに対する仮想インフラ管理者の人件費の合計	vRealize Business for Cloud	仮想インフラ管理者の作業時間数 * 作業時間単価で算出され、最も近いセントに丸められます。
仮想マシンバックアップ費用	仮想マシンのバックアップ コスト	vRealize Business for Cloud	仮想マシンの保護に使用される VMware Data Protection の検出。VMware Data Protection のコストは、仮想マシンのサイズに基づいて保護対象の仮想マシンに割り当てられます。VMware Data Protection のコストは自動的に計算されます。
直接費用	仮想マシンに適用される直接費用の合計	vRealize Business for Cloud	OS 管理者の人件費の合計 + Windows デスクトップ ライセンスの合計 + 仮想マシンバックアップの合計 + 仮想インフラ管理者の人件費の合計で算出され、最も近いセントに丸められます。
仮想マシン タグ	仮想マシンに対して記録されるタグ	vCenter Server	vCenter Server で仮想マシンに対して記録されるタグ。
月次のアップタイム (時間)	1 か月間に仮想マシンがパワーオンになっていた時間数	vCenter Server	vCenter Server からの仮想マシン メトリックの定期的な収集。
月次のアップタイム (%)	1 か月間に仮想マシンがパワーオンになっていた時間の割合	vRealize Business	1 か月間に仮想マシンがパワーオンになっていた時間の割合
月次コストの合計	仮想マシンの月次コストの合計。	vRealize Business for Cloud	ストレージの合計コスト + コンピューティング コストの合計 + 直接費用で算出されます。
インフラストラクチャタイプ	サーバが ESXi サーバであるか vRealize Automation から追加された物理サーバであるかどうかを指定します。	vRealize Automation	該当なし
実際の CPU 使用率 (GHz) の計算	仮想マシンの月次平均 CPU 使用率	vCenter Server	該当なし
実際の RAM の使用率 (GB) の計算	仮想マシンの 月次平均 RAM 使用率	vCenter Server	該当なし
実際のストレージの使用量 (GB)	対象仮想マシンの月次平均使用ストレージ	vCenter Server	該当なし
CPU 使用率のサンプル数	CPU コストの計算に使用される使用率のサンプル数	vCenter Server	該当なし
メモリ使用率のサンプル数	RAM コストの計算に使用される使用率のサンプル数	vCenter Server	該当なし
データストアあたりの使用率サンプルの数	コスト計算に使用されるデータストア 1 個あたりのサンプル数を示すカンマ区切りのリスト	vCenter Server	該当なし

表 6-3. vCenter Server 仮想マシン レポートのフィールド (続き)

フィールド名	説明	発生元	派生
プロビジョニング済みのすべてのデータストアストレージ (GB)	この仮想マシンのプロビジョニング済みの合計ストレージ (GB)	vCenter Server	該当なし
VM MOID	仮想マシンの MOID	vCenter Server	該当なし

クラスタのレポートの表示

ご使用の仮想環境内のすべてのクラススのレポートを表示できます。vRealize Business for Cloud は、環境内で稼働しているクラスタの月次コストの合計を表示します。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name><vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [レポート] の下で、[vCenter Server] をクリックします。
- 4 [クラスタ] を選択します。

vCenter Server エイリアスおよび仮想マシンが属するデータ センター名とともに、vRealize Business for Cloud は、クラスタ化されているかどうかに関わらず、すべてのクラスタの詳細とクラスタ コスト配賦に関する情報を表示します。[削除済み] フィールドを使用して、クラスタが存在するか削除済みかを識別することができます。vRealize Business for Cloud はまた、クラスタ内の仮想マシンの加重平均とクラスタの月次コストの合計も表示します。

vCenter Server クラスタ レポートの列の詳細

このセクションでは、vCenter Server クラスタのレポート内の各列について説明します。

表 6-4. vCenter Server クラスタのレポートのフィールド

フィールド名	説明	発生元	派生
クラスタ名	仮想マシンが存在するクラスタの名前です。	vCenter Server	vCenter Server および関連する仮想マシンで構成されているクラスタです。
vCenter Server エイリアス	vCenter Server 接続の記録の名前です。	vRealize Business for Cloud	[管理] - [ビジネス マネジメント] - [接続の管理] ページで vCenter Server に付与した名前です。
データセンター名	仮想マシンが存在する仮想データセンターの名前です	vCenter Server	vCenter Server にある仮想データセンターの名前です。

表 6-4. vCenter Server クラスタのレポートのフィールド (続き)

フィールド名	説明	発生元	派生
説明	クラスタの概要です	vRealize Business for Cloud	該当なし
サーバ台数	vCenter Server クラスタの下にあるサーバの数または構成が一致するサーバの台数です。	vCenter Server および vRealize Business for Cloud	該当なし
仮想マシン台数	構成が一致するすべてのサーバ下にある仮想マシンの台数です。これにはテンプレートも含まれますが、vSphere Data Protection (VDP) 仮想アプライアンスは除外されます	vCenter Server および vRealize Business for Cloud	該当なし
CPU キャパシティ (GHz)	構成が一致するサーバすべての CPU キャパシティの合計です。	vCenter Server	該当なし
CPU の使用量 (GHz)	構成が一致するサーバすべての CPU の総使用量です。	vCenter Server	該当なし
CPU 使用率 (%)	CPU キャパシティと比較した使用量のパーセンテージです。	vCenter Server	該当なし
CPU 予想使用率 (%)	クラスタが動作すると予測される CPU 予想使用量のレベルです。	vRealize Business for Cloud	該当なし
CPU 基準レート	クラスタの GHz あたりの毎月の CPU 単価です。	vRealize Business for Cloud	該当なし
CPU 未配賦コスト	クラスタ上の未配賦の CPU コストの額です。	vCenter Server	未配賦コストは次のように計算されます。 (CPU 予想使用率のパーセンテージ ÷ 100 × CPU キャパシティ - CPU 使用量 GHz) × CPU 基準レート
RAM キャパシティ (GB)	一致するサーバすべての RAM キャパシティ合計です。	vCenter Server	該当なし
RAM 使用量 (GB)	一致するサーバすべての RAM の総使用量です。	vCenter Server	該当なし
RAM 使用率 (%)	一致するサーバすべての RAM の総使用量です。	vCenter Server	該当なし
RAM 予想使用率 (%)	クラスタが動作すると思われる、RAM の予想されるレベルです。	vCenter Server	該当なし
RAM 未配賦コスト	クラスタ上の未配賦の RAM コストの額です。	vCenter Server	未配賦コストは次のように計算されます。 (RAM 予想使用率のパーセンテージ ÷ 100 × RAM キャパシティ - RAM 使用量 GB) × RAM 基準レート
RAM 基準レート	クラスタの 1 GB あたりの毎月の RAM 単価です。	vCenter Server	該当なし
月次コストの合計	クラスタの月次コストの合計です。	vRealize Business for Cloud	計算は、クラスタ内の一致するサーバすべての月次コストの合計です。

表 6-4. vCenter Server クラスタのレポートのフィールド (続き)

フィールド名	説明	発生元	派生
配賦済みコスト	クラスタの配賦済みコストの合計です。	vRealize Business for Cloud	計算は、月次コストの合計 - 未配賦コスト
未配賦コスト	CPU と RAM の両方の未配賦コストの合計です。	vRealize Business for Cloud	計算は、RAM 未配賦コストの合計 + CPU 未配賦コストの合計です。
配賦済みコスト (%)	月次コストの合計と比較した配賦済みコストのパーセンテージです。	vRealize Business for Cloud	該当なし
仮想マシン別クラスタ コスト	当該クラスタ下にある仮想マシンすべてのコストの合計です。これには仮想マシンに直接設定されるコスト (オペレーティングシステム ライセンス、仮想マシンの人件費、オペレーティングシステムの人件費) も含まれます。	vRealize Business for Cloud	該当なし

vCloud Director レポートの表示

組織、組織の仮想データ センター、仮想マシン、vApp に基づいて分類された vCloud Director 構造のコストの詳細を表示できます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name><vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [レポート] の下で、[vCenter Server] をクリックします。
- 4 [レポート] の下で [vCloud Director] をクリックします。
- 5 レポートを表示する構造要素を選択します。

オプション	説明
組織	組織構造の月次コストの合計に加え、組織が属する vCloud Director サーバ名が vRealize Business for Cloud で表示されます。
組織 VDC	組織の仮想データ センター構造の月次コストの合計に加え、組織の仮想データ センター名および組織の仮想データ センターが属する vCloud Director サーバ名が vRealize Business for Cloud で表示されます。
仮想マシン	仮想マシンの月次コストの合計に加え、仮想マシン名および仮想マシンが属する vCloud Director サーバ名が vRealize Business for Cloud で表示されます。
vApp	vApp の月次コストの合計に加え、vApp 名および vApp が属する vCloud Director サーバ名が vRealize Business for Cloud で表示されます。

vRealize Automation 仮想マシン レポートの表示

vRealize Automation 仮想マシンのリストとその詳細を表示できます。

開始する前に

vRealize Business for Cloud が vRealize Automation の IaaS コンポーネントで構成され、すべてのサービスが稼働していることを確認します。

手順

- 1 https://<vRealize_Automation_host_name>/vcac/org/tenant_URL で、テナント管理者の認証情報を使用して vRealize Automation インターフェイスにログインします。
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [レポート] の下で [vRealize Automation 仮想マシン] をクリックします。

vRealize Automation 仮想マシン名とその他の仮想マシンの詳細（エンドポイント、監視対象かどうか、ビジネスグループ名、ブループリント名、申請者、テナント名、所有者、仮想 CPU 数、構成済みの RAM とストレージデータなど）のリストを確認します。また、CPU、RAM およびストレージの価格の詳細（追加価格、価格設定ポリシー名、月間料金合計）も確認できます。

ストレージ レポートの表示

ストレージ レポートは、ストレージアレイ レポートと LUN レポートに分類されます。

ストレージアレイ レポートの表示

vRealize Business for Cloud は、構成した EMC SRM サーバ内にあるデータストアのリストを表示します。

開始する前に

EMC SRM ストレージ サーバを追加して構成します。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name>/vcac/org/tenant_URL（vRealize Automation 統合設定の場合）
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud（vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合）
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [レポート] で、[ストレージ] を選択してから、[アレイ] をクリックします。

データストアの名前、IP アドレス、シリアル番号、メーカーの詳細、アレイ モデル、アレイ タイプ、使用可能な容量、実際のコストと月次コストが表示されます。

ストレージ LUN レポートの表示

vRealize Business for Cloud は、構成した EMC SRM サーバ内にあるストレージの論理ユニット番号 (LUN) のリストを表示します。

開始する前に

EMC SRM ストレージ サーバを追加して構成します。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name><vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [レポート] で、[ストレージ] を選択してから、[LUN] をクリックします。

ストレージ LUN に関する情報が表示されます。アレイの詳細には、LUN 名、LUN ID、シリアル番号、ストレージ消費可能タイプ、LUN の総容量 (GB)、使用済みの容量 (GB)、各 LUN の基準レートが含まれます。

パブリック クラウド レポートの表示

vRealize Business for Cloud で構成した vCloud Air アカウントや AWS アカウントなどのパブリック クラウド アカウントの詳細を表示できます。

vCloud Air レポートの表示

仮想マシンと仮想マシンが属する仮想データ センター、および vCloud Air サービスの詳細を表示できます。

vCloud Air 仮想マシン レポートの表示

vCloud Air アカウントでホストされている仮想マシンの詳細を表示できます。このレポートには、仮想マシン名、当月の名前、アカウント名、サービス ID、仮想マシンが属する仮想データセンターの名前、仮想マシンの状態、仮想 CPU の容量、仮想マシンに割り当てられた RAM (GB) とストレージ (GB)、仮想マシンで発生した月次コストの合計などの情報が含まれます。

開始する前に

vRealize Business for Cloud で vCloud Air アカウントが構成されていることを確認します。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [レポート] の下で [パブリック クラウド] を選択してから、[vCloud Air] をクリックします。
- 4 [仮想マシン] を選択します。

構成した vCloud Air アカウントでホストされている仮想マシンのすべての詳細が表示されます。

vCloud Air 仮想データセンター レポートの表示

vCloud Air アカウントでホストされている仮想データセンターの詳細を表示できます。このレポートには、仮想データセンター名、当月の名前、アカウント名、サービス ID、仮想 CPU の総容量、仮想データセンターに割り当てられた RAM (GB) とストレージ (GB)、仮想データセンターで発生した月次コストの合計などの情報が含まれます。

開始する前に

vRealize Business for Cloud で vCloud Air アカウントが追加されていることを確認します。『vRealize Business Standard のインストールおよび管理ガイド』を参照してください。

手順

- 1 https://<vRealize_Automation_host_name>/vcac/org/tenant_URL> で、テナント管理者の認証情報を使用して vRealize Automation インターフェイスにログインします。
- 2 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 3 [Business Management] をクリックします。
- 4 [レポート] の下で [パブリック クラウド] を選択してから、[vCloud Air] をクリックします。
- 5 [仮想データセンター] を選択します。

構成した vCloud Air アカウントでホストされている仮想データセンターの詳細が表示されます。

vCloud Air のサービス レポートの表示

当月の詳細を表示することができます。これには、サービス オファリング タイプでグループ分けされた月次コストの合計に加え、サービス ID、容量 (割り当て済みおよび使用)、未割り当てコストなどのアカウントの詳細が含まれます。列を非表示、ソート、固定およびグループ分けしてビューを変更または編集できます。チャートで値を表示するレポート タイプを選択したり、特定の値を表示するフィルタを定義することもできます。

開始する前に

vRealize Business for Cloud で vCloud Air アカウントが追加されていることを確認します。
『vRealize Business for Cloud インストールおよび管理ガイド』を参照してください。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [レポート] の下で [パブリック クラウド] を選択してから、[vCloud Air] をクリックします。
- 4 [請求] を選択します。

サービス オファリング タイプ、サービス数、月次コストの合計を確認します。ビューを展開して、アカウント名、サービス ID と名前、容量とコストの情報などサービスの詳細を表示できます。

Amazon Web Services レポートの表示

Amazon Web Services レポートは、AWS リソースと AWS インスタンスに関する情報を提供します。

AWS リソース レポート

Amazon Web Services のリストとそのアカウントやコストなどの詳細を表示できます。

開始する前に

vRealize Business for Cloud で AWS アカウントが追加されていることを確認します。『vRealize Business for Cloud インストールおよび管理ガイド』を参照してください。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [レポート] の下で [パブリック クラウド] を選択してから、[Amazon Web Services] をクリックします。

4 [リソース] をクリックします。

各 AWS リソースの名前と月次総コストのリストが表示されます。また、アカウントやサービスの詳細、可用性ゾーン、タグ、最後に確認された状態の情報、仮想マシンの存在、コスト情報も表示できます。

注意 各 AWS サービスはデフォルトで、**Service Cost** という名前のエントリを持ちます。これは、リソースに関連付けられていないサービスの固定コストです。

AWS インスタンス レポート

サービス、アカウントのコスト、価格、可用性情報など、AWS アカウントにホストされている仮想マシンの詳細を表示できます。

開始する前に

vRealize Business for Cloud で AWS アカウントが追加されていることを確認します。『vRealize Business for Cloud インストールおよび管理ガイド』を参照してください。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [レポート] の下で [パブリック クラウド] を選択してから、[Amazon Web Services] をクリックします。
- 4 [インスタンス] をクリックします。

AWS アカウントに構成されている仮想マシンのすべての詳細が表示されます。この情報には、アカウントの ID と名前、インスタンス タイプ、仮想マシンの状態、仮想マシンの可用性ゾーン、タグ、最後に確認された状態の情報、価格設定ポリシー名と総額、仮想マシンの直接コストおよび仮想マシンで発生したその他のコスト、仮想マシンの存在が含まれます。

Cloud Business 分析レポートの表示

運用に関する詳細や、プライベート クラウドおよびパブリック クラウドの環境におけるインフラストラクチャの支出情報の詳細を表示できます。vRealize Business for Cloud Advanced Edition を使用している場合は、可能なコスト節約の機会も表示できるほか、プライベート クラウドおよびパブリック クラウドの環境でインフラストラクチャを実行するコストを比較することもできます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - `https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL>` (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - `https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name/itfm-cloud>` (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [レポート] で [Cloud Business 分析] をクリックします。
- 4 [PDF レポートのダウンロード] をクリックします。

インフラストラクチャのデータ量によって、レポートを生成するために待機する必要がある時間が決定されます。

ブラウザの設定に基づいて、vRealize Business for Cloud によって Cloud Business 分析レポートの PDF ファイルがマシンにダウンロードされるか、レポートを特定のフォルダに手動でダウンロードすることができます。Cloud Business 分析レポートを使用すると、プライベート クラウドの費用、データセンター全体の費用、ビジネスユニットのコスト、ショーバックの詳細情報、コスト節約のための情報、プライベート クラウドとパブリック クラウドを使用したインフラストラクチャのクラウド比較といった、インフラストラクチャの情報を表示できます。

履歴レポートの表示

vCenter Server 仮想マシンの履歴データのほか、vRealize Business for Cloud で構成した vCloud Air や AWS アカウントなどのパブリック クラウド アカウントの詳細を表示することができます。

履歴データは次のレポートで表示することができます。

- vCenter Server 仮想マシン レポート
- vCloud Air 仮想マシン レポート
- vCloud Air 仮想データセンター レポート
- vCloud Air サービス レポート
- AWS リソース レポート
- AWS インスタンス レポート

注意 履歴データは vRealize Automation レポートでは利用できません。

開始する前に

複数の月のデータをアップロードしている必要があります。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [レポート] で、履歴データを表示する vCenter Server 仮想マシン レポートまたは任意のパブリック クラウド レポートに移動します。
- 4 [月] フィールドの小さな矢印をクリックしてメニューを開きます。
- 5 [フィルタ] を選択します。
- 6 データを表示させる月と年を選択します。
- 7 [OK] をクリックします。

選択した特定の期間の詳細が表示されます。

レポートの編集

レポートを編集し、フィールドに応じて、ビュー、エクスポート、フィルタ、またはグループを変更できます。

開始する前に

有効なレポートがあることを確認します。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL> (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud> (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [レポート] の下で、編集するレポートまたはビューを選択します。

4 [編集] をクリックし、次の操作を実行して編集します。

オプション	説明
カラム	<ul style="list-style-type: none"> ■ [表示] カラムの下で、レポート フィールド名を選択して、ビューで表示または非表示にします。 ■ フィールドをロックまたはロック解除して、ビューで位置を固定します。 ■ フィールド値を昇順または降順でソートします。
グループ分けとグラフ	<ul style="list-style-type: none"> ■ [カラムごとにグループ化] ドロップダウン リストからレポート フィールド名を選択し、選択したカラム名に基づいてレポートをグループ化します。 ■ [関数のカラム] ドロップダウン リストからレポート フィールド名を選択して、[関数] ドロップダウン リストから最大、最小、平均、合計などの操作を選択し、グループのサマリを表示します。 ■ [レポート グラフ] オプションを選択して、レポート タイプをクリックし、値に基づいてチャートを作成します。
フィルタ	<ul style="list-style-type: none"> ■ [クロス カラム フィルタ] 検索ボックスに検索文字列または値を入力し、[OK] をクリックします。自動入力リストから値を選択することもできます。 ■ [追加] をクリックして、フィルタを作成し、[フィルタの追加] ウィンドウで、フィールド名を選択し、値をフィルタする対象に応じてフィルタ条件を指定します。[追加] をクリックします。 ■ フィルタを変更するには、テーブルからフィルタを選択し、編集オプションをクリックします。新しいフィルタ条件を入力し、[設定] をクリックします。 ■ フィルタを削除するには、テーブルからフィルタを選択し、削除オプションをクリックします。

5 [OK] をクリックして変更内容を保存します。

6 [フィルタをクリア] をクリックして、定義したフィルタ条件をクリアします。

7 [保存] をクリックして、定義したフィルタが記載されたレポートを保存し、値が更新されたフィルタを後で表示します。

8 特定の情報でフィルタするには、検索フィールドに文字列を入力するか、文字列の一部を入力して自動入力リストから値を選択します。

vRealize Business for Cloud は、検索文字列に基づいて、結果をフィルタして表示します。

9 [エクスポート] をクリックして、Microsoft Excel ファイルに値を保存します。

画面に表示される値が保存された **.xls** ファイルがダウンロードされます。

カスタム レポートでこれらのレポートを表示できます。

カスタム レポートの表示

レポートを編集し、そのレポートをカスタム レポートとして保存して後から使用できます。

開始する前に

レポートを編集し、カスタム レポートとして保存する必要があります。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud に管理者としてログインします。
 - `https://<vRealize_Automation_host_name></vcac/org/tenant_URL>` (vRealize Automation 統合設定の場合)
 - `https://<vRealize_Business_for_Cloud_host_name>/itfm-cloud>` (vRealize Business for Cloud スタンドアロン設定の場合)
- 2 [Business Management] をクリックします。
- 3 [レポート] の下で [カスタム レポート] をクリックします。
作成済みのカスタム レポートのリストを確認できます。
- 4 詳細を表示するレポートをクリックします。

パブリック API を使用した vRealize Business for Cloud レポートの生成

vRealize Business for Cloud では、一連のデフォルトのレポートをエクスポートすることができます。また、要件に従い、これらのデフォルトのレポートに基づいてカスタマイズされたレポートを作成およびエクスポートすることもできます。

手順

- 1 vRealize Business for Cloud 仮想アプライアンスにログインします。
- 2 次のコマンドを実行して、vRealize Automation および vRealize Business for Cloud 認証のトークンを生成します。

```
wget --no-check-certificate -S -q --header "Accept: application/json" --header='Content-Type: application/json' --post-data '{"username": "<USER_NAME>", "password": "<PASSWORD>", "tenant": "<TENANT>"}' -O - <CAFE_SERVER>/identity/api/tokens、ここで
```

- <USER_NAME> : vRealize Business for Cloud にアクセスできる管理者権限を持つユーザーの名前。
- <PASSWORD> : 管理者アカウントのパスワード。
- <TENANT> : vRealize Business for Cloud に登録済みのテナント。
- <CAFE_SERVER> : vRealize Automation サーバの IP アドレスまたは FQDN。

次の出力が表示されます。

```
HTTP/1.1 200 OK Server: Apache-Coyote/1.1 Cache-Control: no-cache, no-store Pragma: no-cache Expires: Wed, 31 Dec 1969 23:59:59 GMT Content-Type: application/json; charset=UTF-8 Content-Length: 383 Date: Wed, 25 Nov 2015 17:25:11 GMT {"expires": "2015-11-22T01:25:11.000Z", "id": "MTQ00DQ3MjMxMTQzMDo2Mj1hMmU4MTdhOTUwNTM5Y2MyNzphbnQ6aXRibXN1c2VybmfT
```



```
ZTphZG1pbkBpdGJtcy5jb21AdnNwaGVyZS5sb2NhbGV4cGlyYXRpb246MTQ00
DUwMTEwMTAwMDpjNTQzNjE3YjM3NDMyZTEwMTI4MzViZDNlYzEyNDA4MGQwMjI5NTVhMTU4OT
UxNjM0ZDIzZjlhOTk4OTQ0ZDM5YmY2Y2UwZjUxNDVjYjRhNGUzZWZjMjNmYjM1
NGRjZDdkYTdlOGJjMzA1MjBhM2ZhZDg0NTdhYmNiMDEwZTA3OA==", "tenant": "itbms"}
```

ID 値は、認証に使用するトークンです。

```
"MTQ0ODQ3MjMxMTQzMDo2MjlhMWU4MTdhOTEwNTM5Y2MyNzpwZW5hbnQ6aXRibXN1c2VybmFt
ZTphZG1pbkBpdGJtcy5jb21AdnNwaGVyZS5sb2NhbGV4cGlyYXRpb246MTQ00
DUwMTEwMTAwMDpjNTQzNjE3YjM3NDMyZTEwMTI4MzViZDNlYzEyNDA4MGQwMjI5NTVhMTU4OT
UxNjM0ZDIzZjlhOTk4OTQ0ZDM5YmY2Y2UwZjUxNDVjYjRhNGUzZWZjMjNmYjM1
NGRjZDdkYTdlOGJjMzA1MjBhM2ZhZDg0NTdhYmNiMDEwZTA3OA=="
```

注意 トークンには有効期限があります。

```
"2015-11-22T01:25:11.000Z"
```

3 コマンドを実行して、カスタム レポートまたはデフォルトのレポートを取得します。

- カスタム レポートを取得するには、次のコマンドを実行します。

```
wget --no-check-certificate -S -q --header "Accept: application/json" --
header='Content-Type: application/json' --header="Authorization: Bearer
<TOKEN>" -O - https://<VRB_SERVER>/itfm-cloud/rest/reports-api/export-
csv?name=<REPORT_NAME>。値は次のとおりです。
```

- <VRB_SERVER>. vRealize Business for Cloud サーバの IP アドレスまたは FQDN。
- <Report_Name> は、カスタム レポートに設定する名前です。
- デフォルトのレポートの場合、コマンドを実行して完全なデータをエクスポートするか、または特定の期間のデータをエクスポートすることができます。
 - 完全なデータをエクスポートするには、次のコマンドを実行します。

```
wget --no-check-certificate -S -q --header "Accept: text/plain" --
header='Content-Type: text/plain' --header "accept-encoding: gzip"
--header="Authorization: Bearer <TOKEN>" -O -
https://<VRB_SERVER>/itfm-cloud/rest/reports/export-
filters/<DEFAULT_REPORT_NAME>>>out.xls、ここで
```

<DEFAULT_REPORT_NAME> : 表に記載された標準のレポート名。

レポート タイプ	標準のレポート名
vCenter Server レポート	<ul style="list-style-type: none"> ▪ servers ▪ datastores ▪ vsan-datastores ▪ vms ▪ clusters
vCloud Director レポート	<ul style="list-style-type: none"> ▪ vcd-orgs ▪ vcd-org-vdcs ▪ vcd-vms ▪ vcd-vapps
vRealize Automation 仮想マシン レポート	vcac-vms
ストレージ レポート	<ul style="list-style-type: none"> ▪ storage-arrays ▪ storage-luns
vCloud Air レポート	<ul style="list-style-type: none"> ▪ vca-vms ▪ vca-vdcs ▪ vca-services
AWS レポート	<ul style="list-style-type: none"> ▪ aws-resources ▪ aws-vms
ショーバック レポート	<ul style="list-style-type: none"> ▪ showback-vms ▪ showback-add-svcs
予算レポート	rest/budget/export

- 特定の期間のレポートをエクスポートするには、次のコマンドを実行します。

```
wget --no-check-certificate -S -q --header "Accept: text/plain" --
header='Content-Type: text/plain' --header "accept-encoding: gzip"
--header="Authorization: Bearer <TOKEN>" -O -
https://<VRB_SERVER>/itfm-cloud/rest/reports/export-
filters/<DEFAULT_REPORT_NAME>?startmonth=<yyyy-mm>&&endmonth=<yyyy-
mm>>>out.xls、ここで
```

<DEFAULT_REPORT_NAME> : 表に記載された標準のレポート名。

- **startmonth** および **endmonth** を指定すると、vRealize Business for Cloud は **startmonth** で指定した月の第 1 日目から **endmonth** で指定した月まで（前月の最終日まで）のレポートを生成します。

たとえば、**startmonth=2016-02&&endmonth=2016-06** と入力した場合は、2 月の第 1 日目から 5 月の最終日までのレポートが生成されます。

- **startmonth** のみを指定すると、vRealize Business for Cloud では指定した月の第 1 日目から、現在の月までのレポートが生成されます。

たとえば、**startmonth=2016-02** と指定すると、2月の第 1 日目から現在の月までのレポートがエクスポートされます。

- **endmonth** のみを指定すると、vRealize Business for Cloud では、データを利用できる月から、**endmonth** で指定した月まで（前月の最終日まで）のレポートが生成されます。

たとえば、**endmonthendmonth=2016-10** と指定すると、9月の最終日までのレポートがエクスポートされます。

注意 vCenter Server 仮想マシンのレポート、vCloud Air レポート、AWS レポート、およびショーバック レポートで期間を指定できます。特定期間の vCloud Director、vRealize Automation 仮想マシンおよび予算レポートを生成することはできません。

レポートは CSV または XLS 形式でエクスポートされます。